

池袋第一小学校

建替えに関する提言書

平成29年6月

池袋第一小学校の建替え等を考える会

目次

はじめに	1
1. 池袋第一小学校の現況	
(1) 位置	2
(2) 用途地域・地区等	2
(3) 学校施設の現況	3
2. 建替えに係る条件等の整理	
(1) 改築スケジュール	4
(2) 改築期間中の仮校舎	5
(3) 児童数と学級数	5
(4) 学校教育目標	6
3. 建替え基本構想に関する提言	
(1) コンセプト「私たちの思い」	7
(2) 基本的な考え方（基本方針）	8
(3) 施設・機能の考え方（整備方針）	11
(4) 配置計画とその特徴	16
4. 池袋第一小学校の改築に向けた参考意見について	
(1) 実施概要	18
(2) 当日のプログラム	18
(3) 当日の様子	18
(4) 地域説明会における質疑応答の要旨	19
(5) 説明会終了後の考える会について	22
資料編……「池袋第一小学校の建替え等を考える会」における検討経過	
(1) 活動経過	23
(2) 他校事例視察	24
(3) アンケート調査	26
(4) 検討の様子、ワークショップの概要	29
(5) 「池袋第一小学校の建替え等を考える会」会則	43
(6) 「池袋第一小学校の建替え等を考える会」委員名簿	45

はじめに

私たち「池袋第一小学校の建替え等を考える会（以下、考える会）」は、池袋第一小学校（以下、池袋第一小）、池袋第一小のPTA、同窓会、開放運営委員会、町会、地域のまちづくり団体等の代表者及び豊島区によって構成される組織です。

平成27年4月に会を設立して以来、約一年半にわたり、検討会、学校建築に関する勉強会、区内外の学校視察、ワークショップ等を実施し、建替えに関する知識・理解を深めてきました。また、提言書策定の参考とするため、池袋第一小の児童・保護者・教職員、地域の皆様を対象としたアンケート調査や地域説明会を行ない、様々な意見を集約・整理してきました。

そしてこの度、考える会の中で出された提案、地域の皆様からいただいた意見を反映させた提言書がまとまりましたので、本書のとおり提言します。

今後、建替えによって池袋第一小が「学びの場」「生活の場」「地域の拠点」として整備され、地域に安全・安心を与え、世代を超えて愛される学校になることを願っています。

池袋第一小学校の建替え等を考える会



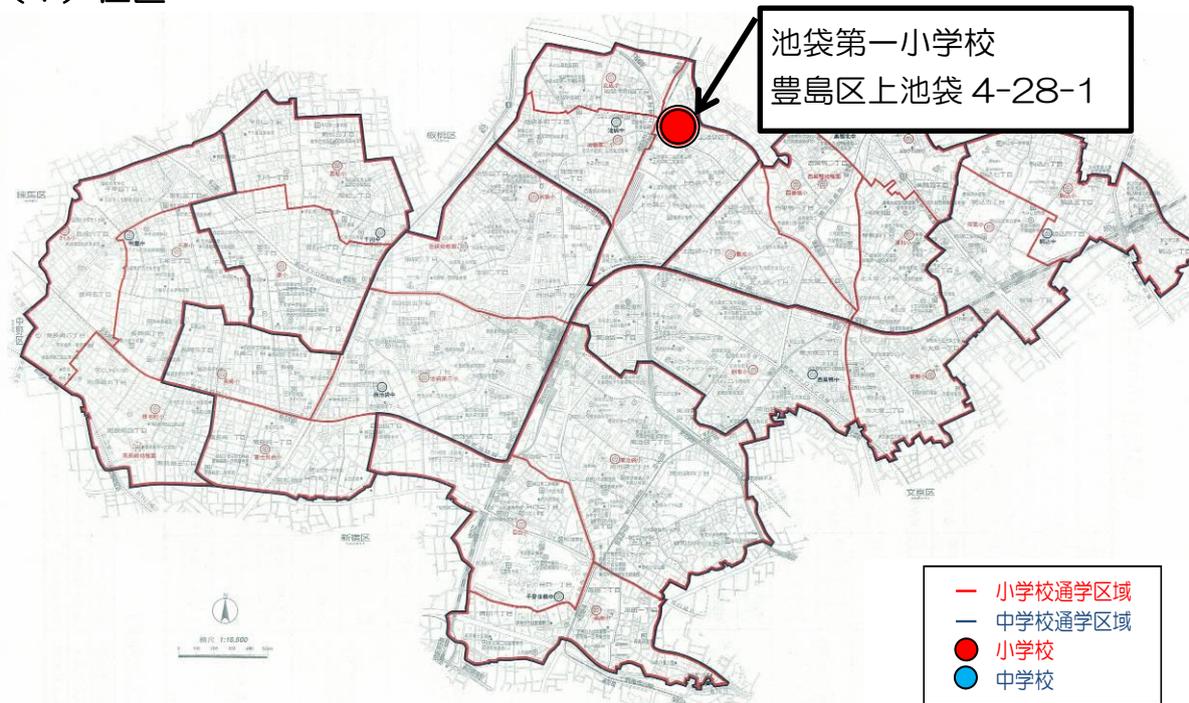
ワークショップの様子



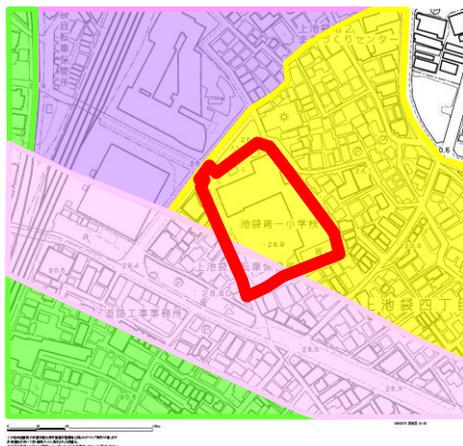
他校事例視察の様子

1. 池袋第一小学校の現況

(1) 位置



(2) 用途地域・地区等



- 用途地域 : 第一種住居地域、近隣商業地域
- 防火地域 : 準防火地域、防火地域
- 高度地区 : 第三種高度地区
- 日影規制 : 測定面の高さ……平均地盤面から 4 m
規制値……敷地強化線から 5 m ラインで 5 時間、10m ラインで 3 時間
近隣商業地域はなし
- 道路斜線 : 1 : 1.25 (第一種住居地域・準工業地域)、1 : 1.5 (近隣商業地域)
- 建ぺい率/容積率 : 第一種住居地域・準工業地域 60%/300%
近隣商業地域 80%/400%

(3) 学校施設の現況



- 所在地 : 豊島区上池袋4-28-1
- 校地面積 : 6,013 m² (運動場 2,699 m²)
- 延床面積 : 校舎 4,908 m²、体育館 558 m²
- 構造 : 鉄筋コンクリート造 (体育館の一部は鉄骨造)
- 建設年度 : 校舎 . . . 昭和36年度
体育館 . . . 昭和39年度
- 主な教室等
 - ・普通教室 : 12 教室
 - ・特別教室等 : 理科室1、音楽室1、図工室1、家庭科室1、生活科室1、コンピュータ室1、ランチルーム1、児童会室1、図書室1、和室1、少人数学習室2、児童更衣室2、児童更衣室(プール)2
 - ・管理諸室等 : 校長室1、職員室1、事務室1、主事室1、会議室2、放送室1、印刷室1、保健室1、職員更衣室2、倉庫・物品庫等3
 - ・子どもスキップ

2. 建替えに係る条件等の整理

(1) 改築スケジュール

豊島区が平成 26 年度に策定した「豊島区立小・中学校改築計画第一次改訂」においては、池袋第一小は平成 30 年度から改築工事を開始する予定でした。池袋第一小の改築工事中の仮校舎は、現在池袋本町小が池袋本町地区校舎併設型小中連携校竣工まで仮校舎として使用している旧文成小校舎が予定されていました。

しかし、平成 28 年 1 月、池袋中学校の校舎解体工事を前に校舎等の外壁仕上げ材のアスベスト含有調査をしたところ、一部の外壁塗装に微量ながら規定値以上のアスベストが含まれていることが判明しました。これを受け、現池袋中の解体工事期間を当初予定より大幅に延長し、池袋第一小の改築工事開始時期も平成 32 年度に延期すると区より説明がありました。

この説明を受け、考える会でも協議を行ない、児童や保護者の混乱を最小限に抑えるよう区からしっかりと説明を行うこと、改築工事までの期間を無駄にせず、よりよい学校づくりへの検討の期間とすることなどを確認し、これを承諾しました。

以上の経緯により、池袋第一小の改築工事は、下図のとおり平成 32 年度から工事開始とし、平成 34 年度の二学期に新校舎開校を予定しています。

年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
予定	考える会	区長提言	基本計画策定	基本設計	実施設計	改築工事	改築工事	新校舎開校(8月)

学校名		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
変更前	校舎併設型小中連携校 池袋本町地区 池二小校地	校舎改築工事		池袋本町小 池袋中 開校					
	池袋中校地	池袋中学校	校庭工事	中学校 グラウンド 使用開始					
	旧文成小校地	池袋本町小学校	池袋中が グラウンド使用	池袋第一小 仮校舎					
	池袋第一小	考える会	基本設計・ 実施設計		校舎改築工事 30年度1学期～ 31年度3学期まで				
変更後	校舎併設型小中連携校 池袋本町地区 池二小校地	校舎改築工事		池袋本町小 池袋中 開校					
	池袋中校地	池袋中学校	校庭工事 ※期間未定		中学校 グラウンド 使用開始				
	旧文成小校地	池袋本町小学校	池袋中が グラウンド使用				池袋第一小 仮校舎		
	池袋第一小	考える会			基本設計・ 実施設計	校舎改築工事 32年度1学期～ 34年度1学期まで			

※区の説明資料より抜粋(平成 28 年 1 月)

(2) 改築期間中の仮校舎

改築工事期間中は、旧文成小学校を仮校舎として使用します。
両校の位置関係は以下のとおりです。



(3) 児童数と学級数

①児童数及び学級数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	48	56	71	47	66	59	347
学級数	2	2	2	2	2	2	12

②児童数及び学級数の推計（平成 28 年 5 月 1 日現在）

年度	児童数						合計	学級数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
H28	48	56	71	47	66	59	347	12
H29	50	47	55	70	47	65	334	12
H30	46	48	46	55	71	47	313	12
H31	44	45	48	46	55	70	308	12
H32	42	42	44	48	46	55	277	12

※平成 28 年度教育人口等推計（東京都教育庁）による。

※推計値は、隣接校選択制等の要素を加味していない。

(4) 学校教育目標

①学校教育目標

人として尊ばれ、お互いの生命や人権を尊重し合い、地球上で夢と優しさを持ち、自らを磨き、心身健康でたくましく生きようとする児童を育てる

◎い…生かせ学び

○け…健康増進

○い…一途な夢

○ち…地球人の優しさ

『平成27年度 学校要覧』より

②目指す学校像

「子供達が進んで学び、喜んで通うとともに、子供・保護者・地域が集う学校」

3. 建替え基本構想に関する提言

(1) コンセプト ー私たちの思いー

ともに生き ともに学び ともに育む集いの場
輝け笑顔の池一小

■コンセプトに込めた思い

考える会では、池袋第一小の建替えにあたり、池袋第一小が児童のことを第一に考えた学校であってほしいという思いがあります。学習の場としてはもちろん、生活の場であることも考え、児童がいきいきと学び、過ごせる学校であってほしいと願っています。

また、80年を超える歴史と伝統を持つ学校として、これからも地域に愛され、地域とともに歩む学校であってほしいという思いもあります。学校と地域のつながりを大切にし、児童がこの地で育ったことを誇りに思える学校であってほしいと願っています。

これらを踏まえ、新しい池袋第一小が、地域と「ともに」生き、仲間である「ともに」学び、学校・地域が協力して児童を育てていく、笑顔に溢れた学校であることを願っています。

これまでの学校・地域のつながりを大切にしながら、児童が心身ともに大きく飛躍する場として、これまで以上に学校・地域の「絆」を深めていきます。

(2) 基本的な考え方

1. 「児童のため」を第一に考えた学校

①「生かせる学び」を支える学習環境

- ・児童のことを第一に考えた教育施設とし、日当りのよい教室や時代に対応したICT^{※1}環境を整備する等「学習環境」を重視する。
- ・1クラスだけでなく複数クラスや学年単位で学習活動ができる空間を確保する。
- ・図書室は、図書室機能とICT環境を一体化した「学習情報センター」として児童が立ち寄りやすい位置に整備する。
- ・校庭は、児童の体力向上や安全性の確保等を図る観点で定められた豊島区の方針^{※2}を踏まえながら、体育の授業・運動会を伸び伸びとできるよう現状と同程度以上の面積を確保し、使いやすい形に整備する。
- ・池袋第一小学校の校庭が、かつてアスファルトから改修されて以降、豊島区の小中学校の中でも数少ない「土系舗装の校庭を持つ小学校」として重ねてきた歴史を大切にする。

②優しさと思いやりを育てる生活環境

- ・児童が一日の大半を過ごす場所であることを考慮し、手洗い・洗口所の充実等、食べる、休む、憩うなどの「生活環境」を大切にしたい学校とする。
- ・開放感があり、児童が心にゆとりを持つことができるよう配慮する。また、リフレッシュ・交流の場となる仕掛けや空間を整備する。
- ・仕上げは木材を基調とし、採光のよい校舎にするなど、明るく、温かみがあり、過ごしやすい空間にする。

③みどりと触れ合う自然環境

- ・都心に位置し、児童が自然に触れる機会が少ないため、自然と親しむことができるよう、ハード面（施設等）・ソフト面（仕組みづくり等）両面から工夫したつくりとする。
- ・周辺部の緑地など、現状と同様、校庭で自然を感じられる環境づくりを検討する。
- ・環境負荷の低減や自然との共生に配慮するとともに、環境教育の場としても活用できるように整備する。
- ・児童が自然と触れ合うことを目的としたプロムナードや遊歩道の考え方を引き継ぐ機能を検討する。

※1 ICT … Information and Communication Technology. 情報通信技術。

※2 豊島区の方針 … 全天候型舗装で熱交換塗料を施した仕様を標準とする、小学校の運動場の整備方針。

2. 地域とのつながりを大切にした学校

①多様な地域開放の充実

- ・「地域と地域」、「地域と学校」の交流をテーマとした地域開放を充実する仕組みを検討する。
- ・児童の安全を守りつつ学校側に負担がかからないような、地域団体やNPO等と協力した管理のあり方を検討する。

②上池袋地区のよりよい環境の実現

- ・学校は地域の中心であることから、地域とのつながりを育むみどりや歩行者の環境を敷地外周部に整備する。
- ・施設の改築によって、日影や土ぼこり、騒音などによる地域への負荷が少なくなるよう配慮する。

③地域にとっても使いやすい学校

- ・学校と地域開放利用者の動線を分けるなど、学校だけでなく地域や子どもスキップもスムーズに活用できるよう適切な施設配置とする。
- ・建物による死角を極力減らす工夫を行なう等、地域も見守りやすい学校とする。

3. 木造住宅密集地域に位置することを考えた学校

①災害時にも役立つ校庭

- ・学校は木造住宅密集地域における貴重なオープンスペースであることから、校舎を中層化（5階建て等）すること等も視野に入れ、限られたスペースを最大限活用する方法を検討する。
- ・池袋第一小学校の校庭が、かつてアスファルトから改修されて以降、豊島区の小学校の中でも数少ない「土系舗装の校庭を持つ小学校」として重ねてきた歴史を大切にしながら、災害時にも活用できる校庭とする。

②地域の防災拠点機能の充実

- ・地域の救援センターとして位置付けられていることから、災害時に活用できる設備を整備し、地域の防災拠点としての機能を確保する。
- ・避難者が一定期間避難生活を送ることを考慮し、福祉やバリアフリーの視点から多様な利用者に配慮した整備をはかる。

③周辺のまちづくりとの連携

- ・「上池袋第2・3・4地区合同まちづくり協議会」による提案を踏まえ、木造住宅密集地域に位置する学校としての役割を果たすよう整備する。
- ・隣接するひばりがや広場の役割や機能を整理し、機能や空間を一体的に活用できるように整備する。
- ・災害時に避難者や緊急車両が通行しやすいよう、敷地外周部を整備する。

(3) 施設・機能の考え方

学校全体

- ・児童が落ち着いて学習や生活をできる環境を第一とする。
- ・校舎内は、明るく開放感があり、木のぬくもりに包まれた温かみのある雰囲気とする。
- ・採光や通風に配慮し、冷暖房設備等、施設環境を充実させる。
- ・時代とともに進歩する学習内容や学習形態、ICT環境へ柔軟に対応できる設備を整備する。
- ・防音対策が必要な部屋は適切な対策をする。
- ・建築条件が限られている中で自然を感じることができるよう、少しのスペースでも自然、みどりと触れ合えるように緑化箇所の工夫をはかる。
- ・現状と同程度の校庭面積を確保することを考え、校舎を5階建てなどの中層型とすることも検討する。
- ・隣接するひばりがや広場が学校敷地になる予定であることを考慮し、校舎や校庭の十分な広さが確保できるよう配置を工夫する。
- ・児童、地域利用者及び災害時の避難者等、多様な利用者に配慮した施設配置とし、トイレや階段等、福祉やバリアフリーの視点に立った整備をする。
- ・子どもスキップは学校施設等も有効活用できるよう、連携をとって整備を進める。

教室など

- ・図書室とICT関係の設備を一体化した「学習情報センター」を、児童が立ち寄りやすい位置に配置する。その際、現在の階段型の読書スペース、立体的なつくりを継承する。
- ・多目的室、ランチルームなど、複数クラスが集まり活動できる空間を確保する。
- ・校庭が狭く、スペースが少ない学校なので、現在の屋上や中屋のように、児童が短い時間でも遊ぶ・憩うことのできる空間を確保する。
- ・教職員の職場環境としても過ごしやすい環境を整備する。教室や準備室の設備などは、教職員の意向を聴いて進める。

校庭

- ・校庭は、現状と同程度以上の面積を確保し、児童や地域開放利用者が運動しやすく使いやすい形にする（体育授業、運動会が実施可能な広さと形に）。
- ・トラックの回転半径を大きくし、できれば 100mトラックを確保する。また、直線で 50m走ができるようにする。
- ・校庭面積を確保するためにも、これまで校庭に設置していた施設で（遊具、運動会用テント、教材園など）、必ずしも校庭に設置しなくてもよい施設については、その機能を守りつつ、別の場所に設置する等の検討をする。
- ・体育の授業で使用する遊具等、現在、校庭内にある遊具は設置する。（鉄棒、ジャングルジム、のぼり棒、雲梯）
- ・授業で行う様々な競技や地域開放の際に、近隣を含め安全に使用できるよう、防球ネットなどの設備面を配慮する。
- ・運動会の観覧スペースとして使用するテントの設置について、これまでの機能を持たせつつ、ピロティとの一体化も含めて検討する。
- ・配置によっては、ひばりがや広場にテントを設置するという可能性を探ることも検討する（校庭とひばりがや広場が一体化で整備される場合）。
- ・教材園について、校庭でなくても屋上等、別の場所に設置することも検討する。
- ・校庭の舗装については、これまでの池袋第一小学校の舗装に係る歴史的背景、思いを重んじながら、近隣への影響も十分に考慮し、児童にとっての最善の策を探る。
- ・時代とともに進化した各種舗装の長所・短所を整理した上で、以下の機能を重視した校庭にする。また、その上で整備後の管理・運営についても学校に負担のないあり方を検討する。

- ・あらゆる児童に負担のかからない、形・舗装・色彩であること。
- ・児童の発育に支障をきたさないこと。
- ・児童のけがの防止につながること。
- ・雨天後にすぐ体育の授業が再開可能であること。
- ・児童が思い切り走り、転ぶことができること。
- ・自然を感じるができること。
- ・災害時にも対応できること（かまどベンチ等で火をおこすなど）。

体育館

- ・日常的な利用に加え避難生活のことも踏まえ、冷暖房設備を整備する。
- ・現在の可動舞台を固定式または電動式にすることを検討する。
- ・地域開放施設として、出入口の場所、管理の仕方に十分配慮した施設とする。
- ・学校行事や地域の利用、災害時の避難生活の場としての機能を考慮し、体育館は 1 階に整備する。
- ・トイレや防災倉庫・備蓄倉庫等の配置に配慮する。

プール

- ・プールは、屋内に設置する方向で検討する。その際、温水プールの整備も検討する。
- ・屋内設置が難しい場合は、近隣マンションからの覗き見防止に配慮する。
- ・紫外線防止のため庇等を設置する。
- ・学年ごとに対応しやすいよう、プール内の床を上下可動式にすることを検討する。
- ・プール使用期間以外は別の用途（テニスコート・バスケットボールコート・土俵など）で活用することを検討する。
- ・プールの水は災害時に活用できるようにする。

共用部分

- ・玄関や廊下は明るく開放的で木目調にし、温かみのある空間とする。
- ・トイレは全て洋式とし、機能的で明るく開放的な空間とする。また、児童数に応じた個数や配置とする。
- ・洗口所は設置数・場所を児童数に応じて適切に整備する。
- ・照明はLEDを基本とする。

地域開放施設

- ・現在の地域開放のあり方（体育館、多目的室、和室、校庭）は引き継ぎつつ、運動系の団体だけでなく文化系の団体にも対応できるようなあり方を検討する。
- ・日頃から地域間、あるいは、地域と学校が触れ合う場を設け交流が盛んになれば、災害時にも役立つ。施設を整備するだけでなく、以下の方法等を参考にし、交流する仕組みづくりを検討する。

※参考

【多世代で交流できる仕組みをつくる】

- ・年配の方と児童との交流を定期的に行う。（例：餅つき、節分など）

【現在の防災訓練を工夫】

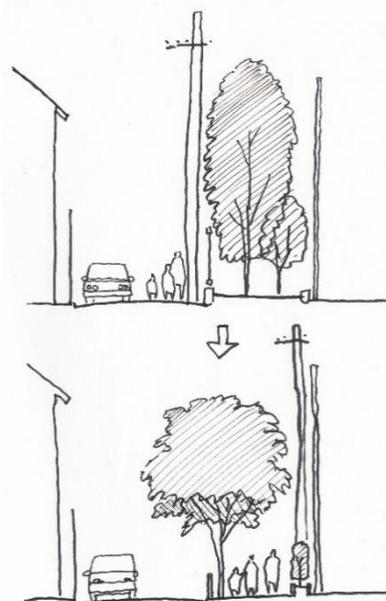
- ・現在の防災訓練（5町会合同）をさらにバージョンアップする。（例：防災訓練を兼ねた運動会などをしながら、救援センターの周知をする）

【食（給食）でつながる】

- ・学校に給食室があるのは魅力的。最大限地域開放に活かしたい。
- ・池袋第一小は給食がおいしいと評判なので活かす。世界のお料理なども実施している。現在のおたっしや給食をバージョンアップし、世界のお料理編で児童と高齢者との食事会などを実施して交流をはかる。

外構

- ・ 平常時の児童や地域住民の通行だけでなく、災害時の緊急車両の通行を考え、敷地内西側に歩道状空地を整備する。
- ・ 歩道状空地は、児童や地域住民が自然に触れることができるようにする。管理については、地域、学校、PTAが協働で取り組む可能性を検討する。
- ・ 校舎周辺は、災害時に安全かつ確実に避難できるようにする。
- ・ 現在の裏庭は有効活用されていない。死角の少ない校舎配置とし、空間は積極的に児童や地域のために活用する。
- ・ 現在のプロムナードや遊歩道の考え方を継承し、学校の緑をツールとした地域と学校の交流のあり方を検討する。



※歩道状空地イメージ↑

防災

- ・ 災害時は救援センターとしての機能を十分に発揮できる施設として整備する。防災備蓄倉庫、防災資機材倉庫、非常用発電設備、マンホールトイレ、かまどベンチ等を整備するほか、プールの水を災害時にも活用できる設備とする。
- ・ 防災目的で整備されたひばりがや広場が隣接しているのは、この学校の大きな特徴であるため、災害時に機能や空間を一体的に活用できるように整備する。
- ・ 西側歩道状空地の整備に併せて防災性の向上のため、電柱の移設などを働きかけ、避難路として確保する。
- ・ 南側道路の行き止まりを解消し、新たに避難門を設置する等、地域住民がスムーズに避難できるように整備する。

環境への配慮・環境学習

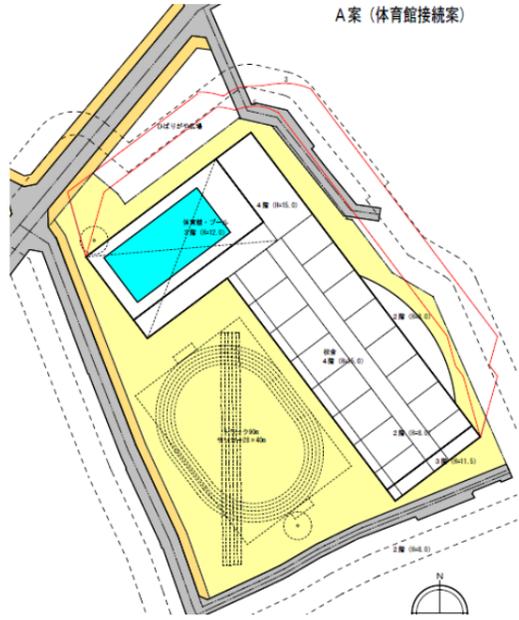
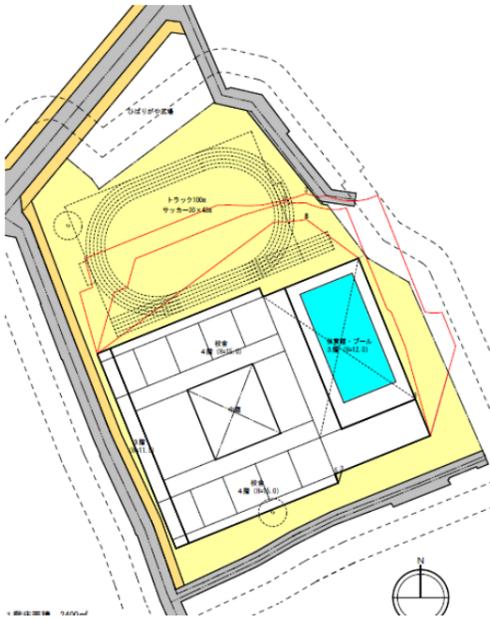
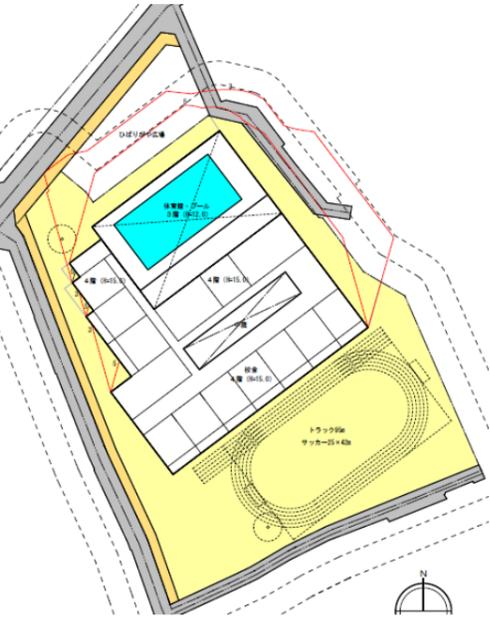
- ・ 都心のなかの限られたスペース、空間を有効に活用し、自然と触れ合える環境を整備する。
- ・ 周辺地域との調和に配慮した緑化計画とする。その際、既存樹木の活用、新規樹木、屋上緑化・壁面緑化等、敷地内の緑化の推進を図る。
- ・ 環境負荷の低減や自然との共生に配慮し、太陽光発電、雨水利用、屋上緑化等、環境教育の場としての機能を整備する。
- ・ 温室効果ガスの排出量を削減するために、日射遮蔽等、建物性能の向上を図るとともに、照明や冷暖房設備等の効率化を図る。
- ・ 現在ある樹木で、伐採する必要のないものは出来る限り残す。また、伐採した樹木をベンチに加工して活用する等、児童が自然を身近に感じられる工夫をする。

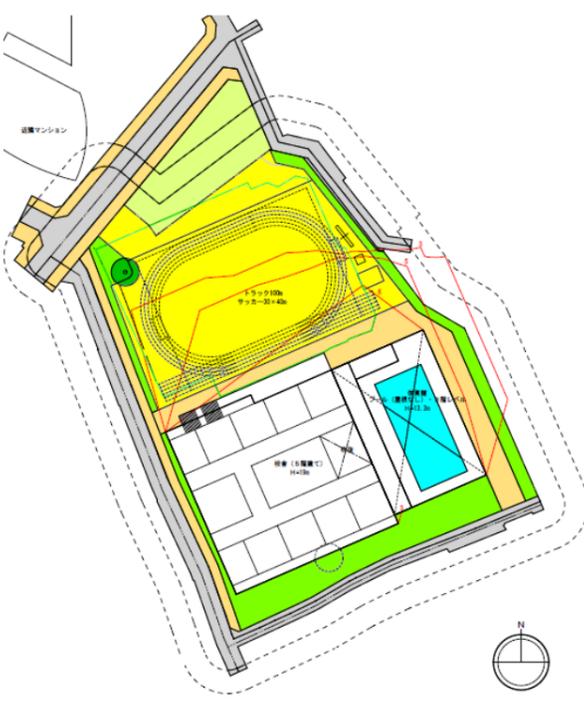
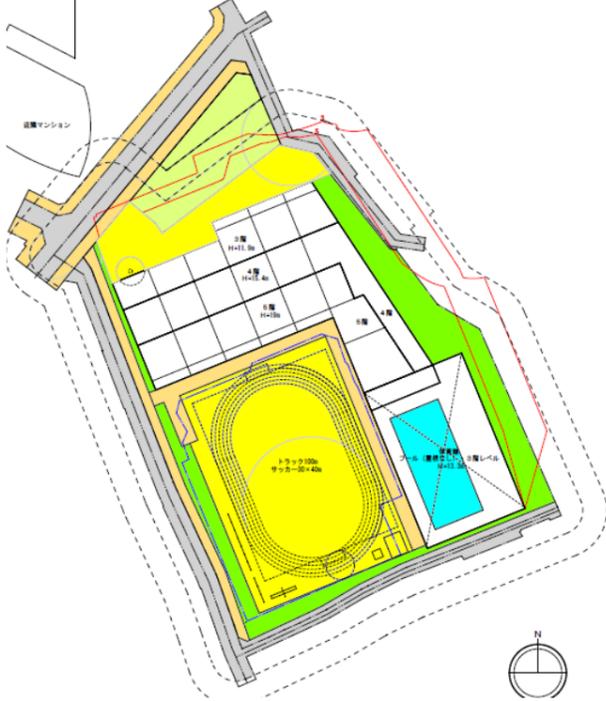
近隣への配慮

- ・日影や土ぼこり、騒音などによる地域への負荷を少なくするように配慮するとともに、近隣住民との協議を行うことが望ましい。

(4) 配置計画とその特徴

施設配置に関して、3つのプランについて、模型等を使って意見交換をしました。また、それをもとに校庭の広さを重視した3プランについても検討しました。

案の特徴	A案 … 校庭とひばりがや広場を体育館で接続する	B案 … 校舎を南側に集約する	C案 … 校舎を北側に集約する
校舎面積を確保する			
校舎	<ul style="list-style-type: none"> ・現況配置に近い案 ・校舎の採光、日当りはよい（一部はそうでない箇所もある）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭があり、明るくなる。 ・屋上が有効活用できる。 ・正門が道路に直接面してよい。 ・動線が短いので、移動に便利。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の日当たりがよい。児童にとって教室の向き、校庭の配置がよい。
校庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマラヤスギを残すことができる。 ・校庭の日当たりがよく、日照時間が長い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と一体的に校庭が使える。 ・校庭に日影ができ、夏は涼しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日当たりがよい。
地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と体育館のつながりがあり、一体利用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場側を工夫すれば、校庭とつながりを持たせることができ、開放感がある空間となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と体育館のつながりがあり、平時の地域開放の視点では、一体感がありよい。
災害時利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と体育館のつながりがあり、一体利用ができる。災害時にも有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時は、ひばりがや広場と一体化しやすい。 ・緊急車両等の大型車が大通りから直接入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と体育館のつながりがあり、一体利用ができる。
課題及び解決策・提案	<ul style="list-style-type: none"> ・現在ある遊具（鉄棒等）を残すと、さらに校庭が狭くなる。 ・プロムナードを残すと死角の位置になってしまう。 ・運動会時に保護者席（観覧スペース）の確保が困難。 ・ひばりがや広場と校庭が分断されるため、一時避難場所として使いにくくなる。 ・災害時、現正門位置のままだと、緊急車両が敷地に入りにくい。 ・プールに屋根等がないと、周囲の高い建物から見えてしまう。 <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭を広くするために、校舎の階数を増やす。 ・校庭だけでなく屋上も活用することで、児童が憩う空間を確保する（緑化、遊ぶ空間の確保）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭が日影になるので、土系舗装の場合、冬や雨天時は使用できないことがある。 ・教室から校庭が眺められない。 ・トラックが急カーブになる。 ・校舎から校庭へ避難しにくい。 ・プロムナードが体育館の裏になる可能性があり、暗くなってしまう。 <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭を広くするために、校舎の階数を増やす。 ・ふだんから児童が利用しやすいプロムナードとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭は、運動会時に保護者席（観覧スペース）の確保が困難。また、遊具、教材園の場所の確保が困難。 ・体育館と校庭が分離しているため、災害時に使いにくい（校庭と体育館が離れているため、物資運搬が大変）。 ・校門、昇降口は学校の顔であるが、地域からは見えにくくなってしまふ。 ・プールに屋根等がないと、周囲の高い建物から見えてしまう。 <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭を広くするために、校舎の階数を増やす。 ・ひばりがや広場に面する側を正門にする

案の特徴	H案 … 校庭とひばりがや広場を体育館で接続する	K案 … 校舎を南側に集約する	L案 … 現在の配置に近づける
校庭面積を重視する			
校舎	<ul style="list-style-type: none"> ・正門が道路に直接面しているよい。 ・校舎周りの死角が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上が有効活用できる。 ・正門が道路に直接面しているよい。 ・動線が短いので、移動に便利。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現況配置に近い案 ・校舎の採光、日当りはよい（一部はそうでない箇所もある）。
校庭	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館と一体的に使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と一体的に校庭が使える。 ・校庭に日影ができ、夏は涼しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・日当たりがよい。 ・体育館と一体的に使える。
地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と体育館のつながりが地域開放の一体感になる。 ・プールが周囲の高い建物から見えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場側を工夫すれば、校庭とつながりを持たせることができ、開放感がある空間となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールが周囲の高い建物から見えにくい。 ・これまでと比較的近い配置のため新たな近隣への影響が少ない。
災害時利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばりがや広場と体育館のつながりがあり、一体利用ができる。災害時にも有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時は、ひばりがや広場と一体化しやすい。 ・緊急車両等の大型車が大通りから直接入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時は、体育館と校庭が隣接し、物資の運搬がしやすい。 ・緊急車両等の大型車が大通りから直接入れる。
課題及び解決策・提案	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭へのアクセスが悪く、災害時の避難や防災活動が不便。 ・これまでと校舎の配置が大きく変わるので、近隣への影響が変化する。 <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんから児童が利用しやすいプロムナードとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭が日影になるので、土系舗装の場合、冬や雨天時は使用できないことがある。 ・教室から校庭が眺められない。 ・校舎から校庭へ避難しにくい。 ・プロムナードが体育館の裏になる可能性があり、暗くなってしまう。 ・これまでと校舎の配置が大きく変わるので、近隣への影響が変化する。 <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北側に教室を配置する。 ・ふだんから児童が利用しやすいプロムナードとする。 ・屋上の活用（緑化、遊ぶ空間の確保）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロムナードを残すと死角の位置になってしまう。 ・ひばりがや広場と体育館・校庭が分断されるため、一時避難場所として使いにくくなる。 ・災害時、現正門位置のままだと、緊急車両が敷地に入りにくい。 <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんから児童が利用しやすいプロムナードとする。

4. 池袋第一小学校の改築に向けた参考意見について

地域説明会を実施し、参加者からいただいた意見を以下のようにまとめました。

(1) 実施概要

- ① 日 時 平成29年3月2日（木）19:00～
- ② 会 場 池袋第一小学校 1階会議室
- ③ 参加者 来場者14名、委員19名、事務局6名

(2) 当日のプログラム

- ① 開会
- ② 会長あいさつ
- ③ 委員紹介
- ④ 提言書（案）の内容説明
- ⑤ 質疑応答など
- ⑥ 閉会

(3) 当日の様子



会長あいさつ



建替え提言書(案)の説明



会場の様子



地域説明会終了後、考える会を開催

(4) 地域説明会における質疑応答の要旨

	質疑、意見など	回答
質疑	設計業者をプロポーザル方式で決定するにあたり、教育委員会として「校舎、校庭はこのようなものが良い」という案が現時点であるか。	今後いただく提言書をもとに仕様を作成し、それを業者に示して提案をいただく流れである。(区)
質疑	校庭舗装の技術は改善していると思うが、実際に現場を調査したうえで取り組んできたのか。防災課の意見を聞いて進めているか。	目白小、池袋本町小等を視察した。池袋本町小、池袋第三小など、最新の校庭を参考にしながら進めている。(区)
質疑	新校舎における校庭の維持管理についてどのように考えているか。区が責任を持って取り組むか。	どのような校庭になったとしても、区が責任を持って管理を行う。(区)
意見	<p>阪神・淡路大震災の時、区として今後土系舗装の校庭にするという方針が示されたはずだが、いつの間にか変わったという印象である。</p> <p>この地域は広い空間が非常に少なく、学校は防災の拠点として重要な位置づけである。高齢者も多く、寒い時期の災害時のことも考え、焚火で暖をとることなどを考えて検討してほしい。</p>	<p>全天候型舗装に熱交換塗料を施したものを標準とする方針は、平成24年に教育委員会で決定した。</p> <p>災害時に校庭で焚火をすることは危険であり想定しておらず、体育館の冷暖房完備など、災害時を考えた対応を行っていく。(区)</p>
意見	24～25年前の校庭改修の際、大学教授などと協力して、地球温暖化などの環境問題にも配慮しながら校庭の検討を行った。「豊島区の学校校庭をすべて芝生化する」という記事もあった。環境問題も重要視し、サーファムではなく自然のものをとを考えている。	<p>地球温暖化等への対策としては、校庭の舗装に関わらず、雨水利用や屋上緑化など、改築工事全体で対応していくことになる。</p> <p>また、かつて校庭の芝生化の方向性もあったが、芝を良い状態で維持管理していくことが難しいという結果になり、平成24年に小学校に関して全天候型舗装に熱交換塗料を施したものを標準とする方針を決定した。(区)</p>

		<p>校庭の舗装が土系舗装か全天候型舗装かという点については、考える会でも何度も話し合いを重ねている。その結論が提言書(案)に表れていると思う。</p> <p>子どもは土系舗装に親しみ、親も愛着があるだろう。一方で、改築にあたっては現在より広い校舎面積が必要で、単純に配置すると校庭が狭くなってしまう。校庭面積を確保するために校舎配置を変えると校庭に日が当たらなくなる可能性がある。そういった点も含め、未来を考えあらゆる視点で考えてきたつもりである。深刻な災害が起きたら、地域で力を合わせて防災拠点を運営していくことになると思っている。(委員)</p> <p>考える会では校庭に関しての話し合いは長い時間を費やした。防災の視点では、避難の時はまず校舎内に避難することになっている。</p> <p>提言書のコンセプトは、最初に「児童のためを第一に考えた学校」である。体育の時間は5・6年生で年90時間、保健体育を除くと80時間となり、雨や雪で2・3日校庭が使えない現状を知った。このような限られた時間の中で、果たして子どもたちにとってどのようにすれば最良かを考えた。いろいろな調査をした結果、このような提言書となっている。(委員)</p>
--	--	--

意見	<p>自分は子どもが池一小に通っている保護者であり、近隣住民である。</p> <p>子どもの体育の授業を見ると、雨や雪の後しばらくは校庭で授業はできていない。また、乾燥する季節は砂埃がひどく、先生方が水を撒いてから授業をしている。決められた体育の授業時間を十分に活用できていないのは現在の校庭のデメリットである。</p> <p>また校庭の表面温度だが、真夏の直射日光がひどい時期はプールなどを使っており、そもそも外で授業は行っていない。そのため、校庭の表面温度は大きく影響がないと思う。</p> <p>地域住民としては、乾燥している時期は砂埃が舞い、家中が砂だらけになってしまう。春の気持ちいい時期に窓を開けていられないと話すことがある。</p> <p>土の良さ、感触は教育上大切だと思うが、全体を考えるとグラウンドは全天候型舗装にし、遊歩道やプロムナード等といった別の場所で子どもたちが自然や土と親しめるようにできればよいと考える。</p>	
質問	<p>維持管理や土ぼこりの問題がどのような経緯で現在のようになったのか、現在どのような問題が起きているのかという実状を把握していないのではないか。</p> <p>教育委員会として防災課と連携をしているのか。</p> <p>今後提言書をまとめ、さらに先に進むことになると思うが、更に地域の意見を求める場はあるのか。校庭の舗装について私たちが知る場、意見を聴いてもらう場はあるのか。</p>	<p>考える会でも校庭舗装についてかなりの時間をかけて話し合いをしている。いずれにしても「児童のための教育、学校」というところを第一に考えていく。(区)</p>

意見	<p>提言書では校庭の舗装について意見が二分されている。ある程度方針がはっきりした状態で設計に入らないといけないのではないか。あるいは、教育委員会が今日の意見を聞いた上で、責任を持ってまとめるという立場になるべきではないか。</p>	<p>考える会で土系舗装・全天候型舗装に意見が分かれたためこのような提言書になっている。プロポーザルについては、教育委員会としての方針をきちんと立てたうえで臨みたい。</p> <p>考える会は今後も存続する。段階ごとの説明会も実施予定である。</p> <p>プロポーザルに入る前に教職員、保護者、地域の方々の意見を集約し、そのうえで教育委員会で方針を決めてプロポーザルに臨むことをお約束する。</p> <p>(区)</p>
----	--	---

(5) 説明会終了後の考える会について

① 日時 平成29年3月2日(木) 20:15~20:45

② 協議内容の要旨

協議内容	今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答は、校庭の舗装に関することに集中していた。 ・校庭の舗装については、考える会における協議と同様、土系舗装を希望する声も、全天候型舗装を希望する声も両方あった。 ・考える会でも、二種類の舗装の長所・短所について時間をかけて協議しており、それぞれの意見に関わる内容は『建替えに関する提言書(案)』に記載がある。 	<p>『建替えに関する提言書(案)』の内容は変更せず、このまま区長に提言を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの意見が出されており、当初想定していたページ数では掲載しきれない。 	<p>ページ数を増やし、質疑応答の要旨を具体的に記載する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の内容を、地域にもフィードバックするべきである。 	<p>ニュース発行等の方法と時期を検討し、地域に当日の様子が伝わるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・考える会の中でも地域説明会の中でも意見は二つあり、やはり提言の段階でどちらかに絞ることはできない。 	<p>区には、考える会や地域説明会などこれまでの経過を踏まえた上で改築の方針を検討するよう求める。</p>

資料編

「池袋第一小学校の建替え等を考える会」における検討経過

(1) 活動経過

回	開催時期	協議事項
第1回	平成27年 4月28日	<ul style="list-style-type: none"> 池袋第一小学校の建替え等を考える会の設立について 池袋第一小学校の建替え等を考える会の進め方について 池袋第一小学校の現況等について
第2回 勉強会	6月16日	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会（講師：長澤悟氏(教育環境研究所所長、元東洋大学理工学部建築学科教授) 今後の進め方（先進事例視察について、アンケート調査について）
アンケート	7～8月	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の実施・集計
視察	8月25日	<ul style="list-style-type: none"> 目白小学校、区外近隣小学校(1校)を視察
第3回	9月10日	<ul style="list-style-type: none"> 池袋第一小学校とその周辺を現地調査 ワークショップ①（先進事例を視察した内容、前提条件を共有した上で施設計画の検討①（建替えへの「思い」の共有） 視察報告・振り返り
第4回	10月8日	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果概要について 前提条件等の整理・設定確認 ワークショップ②（計画計画の検討②（計画の方針づくり））
第5回	10月29日	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果概要について ワークショップ③（施設計画の検討③（計画の方針づくり））
第6回	11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ④（施設計画の検討④（計画の方針づくり））
第7回	12月10日	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ⑤（施設計画（案）、提言書案たたき台について）
第8回	12月22日	<ul style="list-style-type: none"> 提言書案（基本構想案）について
第9回	1月28日	<ul style="list-style-type: none"> 改築スケジュールの変更について
第10回	2月25日	<ul style="list-style-type: none"> 校庭舗装について
第11回	3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 校庭舗装について 改築コンセプトについて
第12回	平成28年 4月19日	<ul style="list-style-type: none"> 改築コンセプトについて
第13回	5月26日	<ul style="list-style-type: none"> 提言内容まとめ
第14回	6月21日	<ul style="list-style-type: none"> 提言内容まとめ
視察	10月6日 10月27日	<ul style="list-style-type: none"> 池袋本町小学校を視察
第15回	11月8日	<ul style="list-style-type: none"> 提言内容まとめ
第16回	平成29年 1月26日	<ul style="list-style-type: none"> 提言内容まとめ 地域説明会について
地域 説明会	3月2日	<ul style="list-style-type: none"> 地域説明会
区長 提言	6月(予定)	<ul style="list-style-type: none"> 区長提言

(2) 他校事例視察

①板橋区立板橋第一小学校（平成27年8月25日）

広い敷地を有効に使い、多目的スペースを豊富に設けているのが特徴。特に低学年オープンスペースにある「DEN」は、学習以外にも憩いの場として活用されており、児童が落ち着いて生活できるように配慮されていた。



校庭



中・高学年の昇降口



職員室



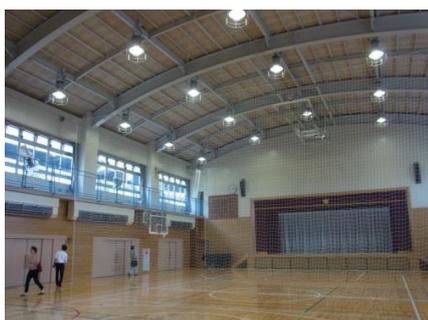
普通教室



普通教室前スペース



DEN(低学年オープンスペース内)



体育館



メディアセンター(図書室)



大階段



大階段から続く多目的室



プール(4階屋上)



屋上緑化

②豊島区立目白小学校（平成27年8月25日）

シンボルツリーであるヒマラヤスギ、秋田杉やめじろファームなど、自然に触れることのできる箇所が複数ある。また、最新のICT機器の導入や洗口所の設置など、豊島区の最新の改築校の見本として参考になる部分がたくさんあった。



校庭



昇降口



シンボルツリーのヒマラヤスギ



ヒマラヤホール



体育館



能代産の秋田杉を使用



なかよしの庭、めじろファーム



普通教室



プロジェクタによる授業



学習情報センター（図書室）



洗口所



プール（屋上）

(3) アンケート調査

提言書策定の参考とするため、池袋第一小学校の児童・保護者・教職員、地域の方々を対象にアンケート調査を実施した。

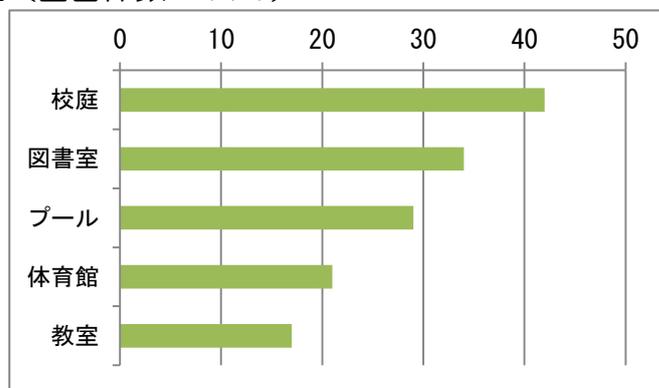
- 調査期間 平成 27 年 7 月 3 日（金）～7 月 31 日（金）
- 調査対象 池袋第一小学校の児童、保護者及び教職員（計 740 名）
通学区域内の区民（計 50 名） 合計 790 名
- 集計結果

調査対象		回収率	配布数	回答数
池袋第一小学校児童	1～3年生	97.2%	176	171
	4～6年生	84.6%	188	159
同 保護者		10.7%	300	32
同 教職員		50.0%	26	13
通学区域内の区民		20.0%	50	10
合計		52.0%	740	385

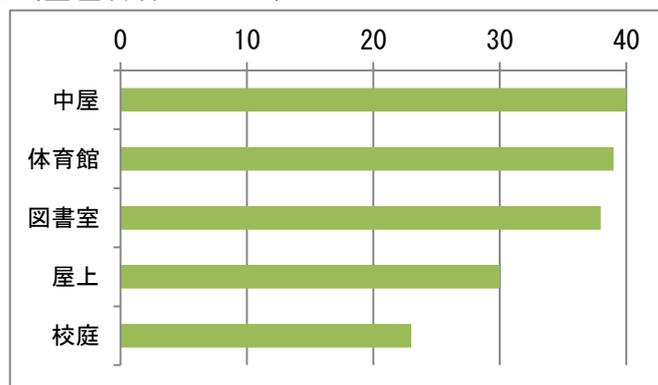
■調査結果の紹介（一部）

【好きな場所、よいと思うところ】（複数回答可）

●1～3年生（回答件数：171）



●4～6年生（回答件数：477）



●保護者（回答件数：99）

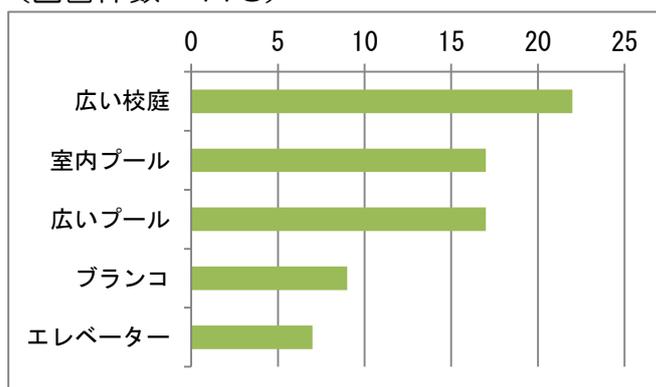
	主な意見
土の校庭 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・砂埃が舞うが、サッカーなどスポーツするのに良い。 ・雨が降ってもすぐ乾く。
プロムナード (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と触れ合える
図書室 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせがよい ・広々としている ・靴を脱いで本が読める
和室 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に和室があるのはよい
ウサギ小屋 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物に触れられる

●地域（回答件数：30）

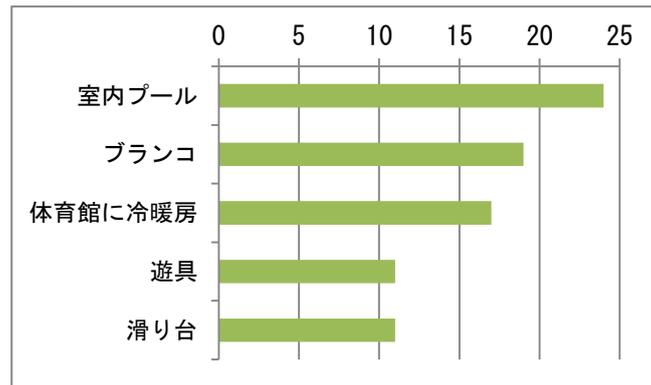
	主な意見
校庭 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・土の校庭がよい
図書室 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・立体的なつくりで広々としている
和室 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがひきしまる
中屋	<ul style="list-style-type: none"> ・短い休憩時間にリフレッシュできる。
外フェンス	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのようすが外から眺めることができる。
ヒマヤスギ	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルツリー。子どもたちも自慢げに話してくれる。
緑 など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に緑が多くて良い。

【新しい学校にほしいもの】（複数回答可）

●1～3年生（回答件数：173）



●4～6年生（回答件数：477）



【新しい学校で重視してほしい点】（複数回答可）

●保護者（回答件数：99）

	主な意見
運動の場 （22）	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭を広くする ・土のままがよい ・材質を変える
学習の場 （16）	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の充実 ・少人数学習に対応する ・教室を広くする
安全・安心 （15）	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応をしっかりとする(防犯カメラ等)
環境・エコ （6）	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化に対応する。・雨水利用 ・屋上緑化
バリアフリー （6）	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子にも対応できるように。 ・エレベーターの設置

●地域（回答件数：27）

	主な意見
安全・防災 （8）	<ul style="list-style-type: none"> ・救援センターとして更なる機能強化。
運動の場 （5）	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面を考えプールを室内にする。 ・ひばりがや広場を含めた計画をし、校庭を広くしてほしい。
バリアフリー （4）	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの設置。 ・地域の中心校として必要不可欠
学習の場 （3）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育成の基本 ・更なる外国語教育の特化を。
地域と学校の連携・交流 （3）	<ul style="list-style-type: none"> ・町会との連携 ・高齢化社会への対応で若者と高齢者の交流の場にする。

(4) 検討の様子、ワークショップの概要

①ワークショップの目的

池袋第一小学校をどのような学校にしたいか、より多くの意見・要望を挙げ、建替えに関する提言書のコンセプト、基本方針、整備方針、施設配置等に反映させることを目的として実施した。

②ワークショップの内容

■ ワークショップ1 (9月10日)

テーマ：視察事例から考える／今の学校の良いところ、建替えへの思い

他校事例視察で訪れた2校の様子を振り返るとともに、そこから見えた「今の学校のよいところ」を確認した。また、それぞれの「建替えへの思い」を共有し、検討における多様な視点を確認した

➡ 各グループからの意見：P.32～33 参照



■ ワークショップ2 (10月8日)

テーマ：学校計画の方針づくり

改築の前提条件となる学校の現況や周辺のまちづくりの状況を共有した。

その後、「児童たちにとっての学校」「地域とのつながり」「災害時利用」の3つのテーマについて、新しい学校に取り入れたいことは何かを協議した。

➡ 各テーマに対する意見：P.34～35 参照



■ ワークショップ3 (10月29日)

テーマ：学校計画の方針づくり

前回のワークショップで出た3つの校舎配置案の特徴・考え方を共有した後、それぞれの「よいと思う点」「改善したい点、心配な点」を意見交換し、考える会全体でさらに考えを共有した。



➡ 各テーマに対する意見：P.36～37 参照



■ ワークショップ4 (11月17日)

テーマ：学校計画の方針づくり - 整理すべき課題 -

これまでのワークショップで出された意見の中で、対立してしまうため考え方の整理が必要な意見を共有した。それぞれについて再度グループ協議を行ない、新しい池袋第一小においてはどのような考え方がよいかを検討した。



➡ 各配置案に対する意見：P.38～39 参照

■ ワークショップ5 (12月10日)

テーマ：建替えに関する提言書（案）

これまでの意見や考えを整理し、「建替えに関する提言書（案）」としての共有を行なった。

基本方針や整備方針のまとめ方を確認したほか、文言を整理する必要がある事項などを共有した。

➡ 各テーマに対する意見：P.40 参照



■ ワークショップ6 (12月22日)

テーマ：建替えに関する提言書（案）／改築校のコンセプト

提言書（案）の内容を、学校のあり方の面を含めて多様な視点から検討した。

また、豊島区の直近の改築校のコンセプトの情報共有を行ない、池袋第一小の改築コンセプトについてのイメージを広げた。



③ワークショップでの意見 ワークショップ1

テーマ：視察事例から考える／今の学校の良いところ、建替えへの思い

1. 視察で参考になったこと、思うこと

<p>オープンスペースのみ方</p> <p>【両校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • どちらの学校もオープンスペースが豊か。 • 子どものたまり場としても利用されている。 • 学校全体で共有できるオープンスペースが必要だと思った。 • 教室の壁はなくさず、窓を広くする方がよい。 <p>【板橋第一小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • DEN は、オープンスペースとつながり面白い空間。 • DEN が心地よさそう。開放的。 • DEN は、面白い空間だが、池一小にはスペースを確保するのが難しいだろう。 • 1階に庇があって雨に濡れずに歩けるようになっていた。 <p>【目白小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 屋上も積極的に利用されていた。 • 共有で利用する部分を1階に、教室を2階以上に配置しており、落ち着いて勉強できる。 	<p>設備、学校のつくり</p> <p>【教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ロッカーが移動できるのがよい。 • 板一小のプロジェクター設備（可動式スクリーン）がよい。 <p>【体育館】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 体育館に冷暖房があるのがよい。（夏の熱中症対策・災害時） • 舞台付の体育館はよい。 <p>【洗面所・トイレ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 目白小学校の歯磨き用の洗面台はよかった。できれば両面に蛇口があるとよい。 • トイレがきれいでもよかった。誰でもトイレは男女別ではなく共用でもよいのではないかと。 <p>【昇降口】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 両校とも出入口（昇降口）が学年で別れているのがよかった。 • 先生の立場からだと、一か所にまとまっていた方が安心かも。 <p>【職員室】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ガラス張りで見外から見えるのは、保護者にとっては助かる。 • 外から見えて仕事に集中できるだろうか。個人情報等の管理との兼ね合いが大変そう。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 階段が上り下りで（半分で）色分けしてあってよい。 • 照明が人感センサーになっているのは省エネルギーのためによかった。 • 靴箱は上履きと下履きで分けられない方がよいのではないかと。 <p>【その他の良かった設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教室の加湿器・電子黒板。屋上プール。保健室のシャワー。入口の夜間照明（常夜灯）。
<p>自然との触れ合い</p> <p>【両校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 木をふんだんに使用した校舎がよい。 • 両校ともに木材を基調としていて、あたたかみがある。 <p>【板橋第一小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1階に自然と触れ合える空間（教室前デッキ）があり、屋根があるのはよかった。 • 保健室と図書室は、木材のあたたかみと居心地の良さを感じた。 <p>【目白小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 屋上緑化（めじろファーム）や2階のなかよし庭は小さい空間を活かしてよかった。 • 周辺のみどりや屋上のみどりがつながっている。 • 目白小はヒマラヤスギがシンボルツリーになっていて、よかった。 	<p>防災・災害時対応</p> <ul style="list-style-type: none"> • 防災上の地域の核になっている。 • 防災倉庫やマンホールトイレがある。 • ソーラー発電は災害時に使える。 • プールの水は火災や初期消火、マンホールトイレに活用できる。 • 体育館が避難所として考えられていた。 • 非常電源設備がよい。 <p>地域利用</p> <p>【両校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域の人が利用できるスペースがあった。 <p>【板橋第一小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外部階段で2階に上がれるので、地域利用と動線を分けることができる。 <p>【目白小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域も利用できる多目的空間ホールがよかった。

2. 池一小で良いところ、残したいところ、大切にしたいこと

<p>教育環境を第一に</p> <ul style="list-style-type: none"> • 児童のためにも、校庭は今の広さを確保する（トラック 1 周 85m、可能であれば 100m）。 • 学年間の交流としてのランチルームを残したい。 • 図書室の階段型の読書スペース、立体的なつくりを残してほしい。子どもたちがゆっくりと読書ができる。 	<p>樹木・花壇・フロムナード・遊歩道</p> <ul style="list-style-type: none"> • 狭い道路にかかっているが、サクラを残したい • ヒマラヤスギをシンボルツリーとして残したい。 • 児童用と PTA 用の花壇が別々にわかれていた。 • それぞれ使うにしても、近隣の人も和めるような場所（正門側など）に一体的に設置するなどの工夫が必要。 • フロムナードと遊歩道を統合して、裏庭ではなく表（校庭）に出したい。 	
<p>屋上(4階)/中庭(3階)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 校庭やスペースがない学校なので、児童たちにとっても貴重な空間である。 • 短い休み時間でもすぐ出て遊べるのでよいようだ。 • 中庭は、高学年は校庭まで出なくても休み時間に遊べる。 • 網つき、屋根つきの屋上施設を検討してほしい。 	<p>土の校庭</p> <ul style="list-style-type: none"> • 砂埃の苦情がきて対策が必要だが、残してほしい。 • 導入当時は、子どもの安全のためだった。 • 災害時のことを考えて要望した経緯がある。 • 防災拠点としての機能を優先する。 	<p>その他の施設</p> <ul style="list-style-type: none"> • 校歌の石碑 • 給食室は必要 • 和室は親の世代がホッとする空間。 • 各家庭に和室がないので、授業等で活用する。

3. 池一小で改善したいこと、充実してほしいこと

<p>オープンスペース/多目的スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> • DENのような遊びのある空間を設けたい。 • 体育館以外に複数学年が集まることができるスペースがあると、ちょっとした時に役に立つ。 • 現在のランチルーム＋多目的室のようなスペースはよい。 	<p>設備など</p> <p>【体育館】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 冷暖房を入れてほしい（災害時も役立つ）。 • 可動舞台を固定式か電動にしてほしい。 <p>【プール】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在は水位を調整して対応しており水道代がかかるため、床を可動式にする。 • 室内温水プールにしてほしい。 • 屋外か屋上に設置するならば、屋根がほしい。 <p>【洗面所】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 流しの数を増やしたい。 <p>【校庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 校庭は土埃対策を行なう。 • 校庭も一部屋根があるとよい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 照明はLEDにする。 • 教室の設備は、先生の意向をきいてほしい。 • 運動会時等の観戦スペースになるように教室にベランダを設置する。
<p>死角をなくして明るく</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在死角が多いので、全体的に死角をなくしたい。 • 廊下が暗いので、明るくする。教室もきめて採光を工夫してほしい。 	
<p>防災機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> • 樹木を植えて延焼遮断帯にしてほしい。 • 周辺道路を拡幅して災害に強く、アクセスしやすくしたい。 • 災害時にも役立つように、体育館近くに駐車スペースを設けたい。 	
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • スキップは、学校とのつながりをよくしてほしい。 • 無理に緑をふやさなくてもよい。安全面が心配になる。 • 校門は2か所設置してもよいのではないかと。 	

4. 新しい池袋第一小学校への「思い」、「めざすもの」

児童のための学校であることを第一に

- ・児童が落ち着ける環境を第一に。
- ・何よりも児童にとって、「安全」「安心」、また伸び伸びとできる学校にしたい。
- ・デザインよりも機能を優先。教育施設としての使い勝手をよくしたい。
- ・学校自体も広いスペースがなく、周辺も密集した都会の学校なので、少しのスペースでも自然、緑と触れ合えるようにしてほしい。

地域に開かれた学校に/地域の防災拠点に

- ・ハード、ソフト両面で地域に開かれた学校にする。
- ・地域にとっての防災拠点として整備する。
- ・ランチルームを地域の人との交流の場にしたい。
- ・和室を地域開放の場として活用したい。
- ・和室・洋室として両方に使えるような多目的スペースを設けたい。

ワークショップ2

テーマ：学校計画の方針づくり

1. 児童たちにとっての学校

全体的の方針 <ul style="list-style-type: none">【生活環境を大切に】<ul style="list-style-type: none">学校は生活の大半の時間を過ごす場所。学習環境はもちろんだが、食べる、トイレに行く、休む、といった生活環境も大切にすべき。温かい給食が食べられる設備を整えたり（保温機能のある配膳設備など）、きれいなトイレにしたり、くつろいだり友達と交流できる空間を設けたい。クラスが別でも、同学年で集まれるようなスペースを設ける。【居心地・オープンスペース等で開放感があるように】<ul style="list-style-type: none">「居心地のよい学校」というコンセプトにする。居場所がいくつもあり、探せる学校がよい。各階に小さくても休める場所があるとよい。落ち着くことのできる場所があるとよい。例えば屋上、中庭など。開放感があると、児童の心にゆとりが持ててよい。オープンスペースを確保する。	学校のつくり・設備 <ul style="list-style-type: none">【校庭・運動施設】<ul style="list-style-type: none">できるだけ広い校庭が望ましい。広い校庭の確保が難しい場合は、屋上などに遊具を設置するなど、ちょっとした遊び場がほしい。校庭を土にするか、全天候型にするか？<ul style="list-style-type: none">→先生の立場からすると、「慣れればどちらでも問題ない。校庭は土の方がよい。土ほこりが立たない表土にしたり、よいスプリンクラー機器で散水をしたりすればよい。【洗口所・手洗い（水道）】<ul style="list-style-type: none">現在手洗い場の数が少なく、歯磨きの時に混雑する。数を増やし場所を分散させてほしい。歯磨き用の洗口所だけでなく、鏡をつければ普通の手洗いと兼用でよい。洗口所（手洗い）は、節水のためにもセンサー式の蛇口にしてはどうか。【図書室】<ul style="list-style-type: none">校舎の隅でなく、ふらっと立ち寄れる・立ち寄りやすい場所にする。図書室を動線の中心にした学校にする。図書室とICT関係の設備（パソコンルーム）を一体化した「学習情報センター」を設置する。【死角をなくした学校配置】<ul style="list-style-type: none">校舎内や周辺は、災害時に安全・確実に避難できるように、死角をなくす設計にする。校庭に地震や防災倉庫などが単独で作られると、それが死角を生んだり避難の妨げとなることがあるので、校舎と一体にするなどしてはどうか。【その他】<ul style="list-style-type: none">校舎の北側や、東側の階段が強い。採光をよくすべき。教室の防音対策をしっかりとる。2階（等）にベランダのようなスペースを設け、運動会の観覧などに使えるようにする。
自然との触れ合い <ul style="list-style-type: none">【木材を基調とした校舎に】<ul style="list-style-type: none">「気持ちほっとする」ことも大切。その点で、木目調を取り入れるのはよい。木のフローリングの空間があるとよい。寝転がって本を読むこともできる。畳のある空間があるとよい。家に和室がない子どもも日本文化や掃除の仕方を学ぶことができる。畳なら交換もできる。【緑・花との触れ合いができるスペース・空間を】<ul style="list-style-type: none">「自然について学ぶ」という教育の面からも、樹木や花は十分確保する。教室から緑が見えるようにしたい。セットバックによる伐採・移植は仕方ないが、桜の木などうある緑は極力残したい。【緑・花を植える場所を考慮する】<ul style="list-style-type: none">緑や花は、植える場所も大切。ずっと日陰になる場所だと枯れてしまう。ひばりがや広葉樹とのつながりをどうするかによって、緑や花を植える場所も変わるだろう。	その他 <ul style="list-style-type: none">子どもが学びたいくなる“仕掛け”を考えたい。（給食のメニューを子どもが考える等）図書室の段差のある空間など、特徴的な部分を取り入れたい。学校内に子どもスリッパを入れてほしい。給食室は、調理能力が最大600食/日程度なら災害時を考えると少ないと感じる。

2. 地域とのつながり

地域開放の考え方 <ul style="list-style-type: none">【現状維持でよい】<ul style="list-style-type: none">現在の開放部分（体育館、多目的室（会議室）、和室、校庭）だけでも十分だと思う。会議ができるスペースは、何かの時に学校でできると助かるものである。【地域開放施設の考え方】<ul style="list-style-type: none">“児童たちにとっての学校”を守りつつ、どこまで地域開放ができるのかを考えたい。学校内に地域の施設として配置し、学校がそれを使わせてもらうという考え方はどうか。<ul style="list-style-type: none">→管理も全く別となるのでよいのではないか。その場合、地域のNPOなどが管理。	<ul style="list-style-type: none">【ハード面よりも、ソフト面で工夫。仕組みを考える】<ul style="list-style-type: none">地域開放施設のハード面の充実よりも“交流”をテーマに検討するのはどうか。地域と地域、地域と学校との交流の仕組みを考えたい。年齢の方と児童との交流を定期的にしたい。（例：餅つき、節分など）日頃から地域と、地域と学校が触れ合う場を設けていけば、災害時に役立つ。ソフト面を工夫すればするほど、管理面を考えなくてはいけない。児童たちの安全を守りつつ、地域開放・交流を考えていきたい。【出入口（昇降口）の考え方】<ul style="list-style-type: none">出入口を「学校」「地域開放」で別々にして動線を分ければ、地域開放の幅が広がる。
文化系団体への地域開放 <ul style="list-style-type: none">現在は、スポーツ団体に地域開放をしていることがほとんどなので、文化的な開放のあり方を検討してもよい。	地域開放・交流のアイデア <ul style="list-style-type: none">【現在の防災訓練を工夫】<ul style="list-style-type: none">5町会合同の防災訓練をさらにバージョンアップする。<ul style="list-style-type: none">（例：防災訓練を兼ねた運動会などをしながら、救援センターの周知をする）【食（給食）でつながる】<ul style="list-style-type: none">給食室は魅力的。最大限地域開放に活かしたい。池一は給食がおいしいと評判なので活かす。世界のお料理なども実施している。現在のおたっぴ給食をバージョンアップし、世界のお料理編で児童と高齢者との食事会などを実施して交流をはかる。
体育館の地域開放 <ul style="list-style-type: none">【災害時のことも考えて地域開放のあり方を考える】<ul style="list-style-type: none">地域開放や災害時に利用できるよう、シャワー室を体育館に設置する。現在保管倉庫はスキップの裏にあるが、避難所となる体育館の近くに設置するべきである。避難所になることを考えると、体育館は1階に設置するべき。階段等が高齢者には大変。	自然・緑での交流（地域開放）も <ul style="list-style-type: none">地域と学校の交流で緑をツールにすることを考慮しながら、プロムナードや遊歩道の位置を考えてもよい。
木造密集市街地にある学校としての地域開放 <ul style="list-style-type: none">木造エリアということもあり、学校の場所はわかりにくい。マンション住民は、救援センターとして位置づけられていることを知らない人が多い。木造エリア故の学校開放のあり方やその意味を考えながら、方針につなげたい。<ul style="list-style-type: none">→出入口や備・庫の考え方は、自ずと回答が出るはず。	

3. 災害時利用

周辺道路

- ①西側道路セットバック ……道路は中心から2mの後退+敷地内通路で空間を確保。
- ②南側道路セットバック ……セットバックにより既存の樹木は伐採せざるを得ない。
- ③南側道路の行き止まり解消 ……敷地内に避難出来るように避難門を設置する。
プロムナードに接続して北側に抜けられる空間を確保する
- ④周辺からの延焼防止 ……延焼防止の樹林帯を設置する。

校舎のあり方

【災害時利用】

- ・1階には特別教室、多目的室、防災倉庫。
- ・2階以上を教室にして、授業の再開がしやすいようにする。
- ・2階の各部屋からも外に出やすいように配慮する。

【高さ】

- ・校庭を広くするためにも校舎を5階建てにするのはどうか。

体育館の配置

- ・ひばりがや広場と校庭の間に設置してはどうか。
- ・1階に設置し校庭と接するようにする。
- ・体育館の上にプールを設置する。

校庭

- ・全天候は火に弱い。焚き火ができる土がよい。
- ・少しでも広い校庭にしたい。

フロムナード

【災害時の通路として】

- ・南側道路と北側道路を結ぶ空間が必要である。
- ・南側道路の行き止まりの解消のために設置する。

【防犯との兼ね合いを考慮】

- ・日頃からオープンな空間である。
- ・災害時に開けられる門とする。
- ・防犯のためにも明るい空間にする。

【東側エリアの防災】

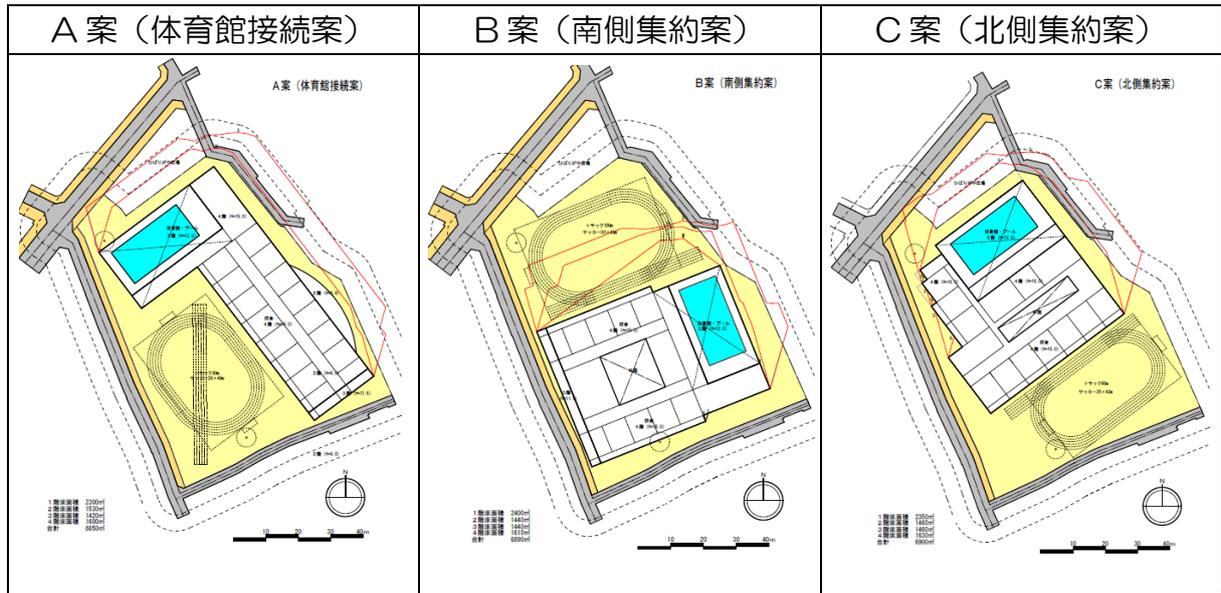
- ・消防水利を提供できるようにする。

防災設備

- ・目白小並みの防災設備はほしい。
- ・ペットボトルの備蓄、井戸、耐震性貯水槽などを備える。

ワークショップ3

テーマ：学校計画の方針づくり



A 案（体育館接続案）

【A 案（体育館接続案）】

視点	良い点	改善したい点/心配な点(とその解決策、提案)
学校のよいところを残す	【シンボルツリー】 ・シンボルツリーが残せる	【屋上】 ・遊んだりできるスペースがとれそう
児童たちにとっての学校	【日当たり】 ・校庭の日当たりがよい ・校庭が南方向にありよい ・校庭の日照時間が長い ・校舎の採光、日当りはよさそう ・北東側に面している教室があるが、特別教室は日があまり当たらない方がよい教室もあるので問題ない	【校庭の広さ、校舎との関係】 ・校庭が狭い ・鉄棒などの遊具の置き場を確保できるか心配 ・校庭には教材園・畑などもほしい →校庭の広さを確保するためにヒマラヤスギを切る →5階建てや地下により校舎の敷地面積を減らして、校庭を広くしてほしい →体育館の部分をひばりがや広場に接近させて校庭を広げられないか →体育館の部分の横の「廊下」をなくして校庭を広げられないか →校舎の形状はそのまま、配置をほぼ左右反転させることはできないか？ 【プロムナード】 ・プロムナードは校舎の死角の位置になる。使われないのではないか ・日当たりが悪そうなので、プロムナードにはあまり緑を植えられないだろう ・「プロムナード」といった呼び方・しつらえにしないでもいいのではないか 【屋上の活用】 ・屋上を活用する（緑化、遊んだりできる空間の確保） ・屋上に遊具はなくてもいいのでは？（低学年の子にとって移動がたいへん） 【プール】 ・近隣のマンションとの位置関係等からプールには屋根（日隠し、日よけ）や防音対策が必要

視点	良い点	改善したい点/心配な点(とその解決策、提案)
地域とのつながり	【ひばりがや広場との一体的利用】 ・ひばりがや広場と体育館のつながりがあり、一体利用ができる	【ひばりがや広場の空間・校舎の位置づけ】 ・ひばりがや広場に面する側が開けているので、こちらを正門にできないか。 ・体育館でなく、昇降口や教室にできないか。 ・ひばりがや広場に面する側に緑を多く配置して、地域にとっても“憩いの空間”にしてはどうか？（敷地の制約を考え、他の場所への緑の配置は最小限にする）
災害時利用	【ひばりがや広場との一体的利用】 ・災害時に避難所となることや拠点機能を考えると、ひばりがや広場と体育館が近くてよい	【ひばりがや広場との一体的利用】 ・ひばりがや広場と校庭が分断されてしまい、校庭を一時避難場所として使いづらい →校舎の形状はそのまま、配置をほぼ上下反転させることはできないか？ 【緊急車両の進入】 ・消防車などが敷地に入りにくいのではないか ・正門が現状の位置だと、前面の道路が狭くかつ一方通行なので、災害時に車両が進入しづらい
その他		・運動会などの保護者席（観覧スペース）の確保が難しそう

B 案（南側集約案）

【B案（南側集約案）】

視点	良い点	改善したい点/心配な点
学校のよいところを残す	【土の校庭】	【プロムナード】 ・体育館の裏なので遮くなりやすい ・死角になってしまう
児童にとっての学校	【校舎】 ・中庭は明るくなるのでよい ・屋上をぐるぐる回れてよい ・屋上がいろいろ使える ・正門が道路に直接面していてよい ・動線が短いので移動が楽 ・4階建ては学年の区分けがしやすい ・エレベーターは4階でもつける 【校庭】 ・ひばりがや広場と一緒に校庭が広々と見える ・校庭に日影ができて夏は涼しい	【校舎】 ・プールに屋根がないと周囲の高層マンションから見られる ・校庭を広くするために8階建てくらいにするのはどうか ・給食堂の位置が難しい ・グラウンドが狭いのに中庭が必要か ・校舎の角度を工夫すれば校庭の終日影はなくなる 【校庭】 ・日影になる土舗装の校庭は冬使えない ・教室から校庭が見えない ・校庭にテントを張るスペースが必要 ・校舎の庇がテントがわりになるように ・広い校庭がほしい ・トラックが急カーブとなる
地域とのつながり	【ひばりがや広場】 ・運動会や防災訓練の時に校庭と一緒に使える ・運動会や防災訓練の時に開放しやすいフェンス（入口をたくさんつける） ・うまく広場を使えば名物になる	【校庭】 ・校舎配置が変わると、土埃がこれまでと別の家に影響する 【体育館】 ・近隣への騒音問題 ・空調を付けて緩和する ・開放用動線の取り方
災害時利用	【ひばりがや広場との一体的利用】 ・広場と校庭が一体化しやすい ・大型車が大通りから直入れれる 【校舎】 ・東側の消防水利不足地区の近くにプールがある ・構造的に強そう ・プロムナードを利用した通路	【校舎】 ・校舎からの避難がしにくい 【防災設備】 ・地下水の利用

その他	【セキュリティ】 ・建物でガードする	・現在の悪いところはなくしたい
	【シンボルツリー・緑化】 ・屋上を花壇や緑地にできる	【シンボルツリー・緑化】 ・ヒマラヤスギはいらぬ ・学校のシンボルはかしわ ・樹林帯が取りにくい

C 案（北側集約案）

【C案（北側集約案）】

視点	良い点	改善したい点/心配な点
学校のよいところを残す		【ヒマラヤスギ】 ・伐採して、校庭を少しでも広くしてほしい 【プロムナード】 ・広くなると言っても、そこまで必要ないのではないか。
児童にとっての学校	【教室】 ・日当たりがよい 【校庭】 ・日当たりがよい ・異学年間で交流できる配置 ・児童にとっては、校舎、教室の配置がよい ・校庭の配置は、南側でよい	【教室】 ・授業のしやすさを考えると、横長配置のほうがよいのではないかと 【校庭】 ・配置はよいが狭い。 ・運動会の観覧席が設けられない ・遊具、教材園の場所をとりにくそう ・少しでも、校庭を広くしてほしい 例1：中庭をなくし、日があたらなくてよい教室（図工室、家庭科室）を北側の教室に配置する。 例2：一部を5階建てにする。 例3：角度を変えて、少しでも校庭を広くする。 【体育館・プール】 ・プールを1階にして、3~4階を体育館にする ・温水プールにし、災害時に風呂として活用 ・体育館上は屋上緑化+児童が遊べるようにする。 【プール】 ・屋根がないのは、日差しが強くなると子どもたちにはきつい。 ・上階だと騒音、マンションから見えて覗きがあるかも。対策が必要。 ・プールを地下に（天井は低く）。体育館も使いやすくなる。

視点	良い点	改善したい点/心配な点
地域とのつながり	【体育館】 ・平時の地域開放という視点では、ひばりがや広場と体育館に近いのはよい。 ・地域開放ゾーンと位置づけてはどうか	【校門】 ・校門、昇降口は学校の顔。地域から、見えにくい。
災害時利用		【校庭・体育館】 ・体育館と校庭が分離していると、災害時に使いにくい ・体育館と校庭、ひばりがや広場と校庭は一体型にしたい。 ・災害時に緊急車両が校庭に入ることを考えると、校庭と体育館が離れていると運搬等が大変なのではないか。 【昇降口（出入口）】 ・地域開放の出入口は、体育館を通るしかなくなるのか。教室側を使う場合、行きにくい。
その他	【プロムナード】 ・広くなる。	【校門】 ・学校の顔として、ひばりがや側に正門を置きたい。 ・校庭も北側にし、校庭を過って教室に入る。

ワークショップ4

テーマ：学校計画の方針づくり - 整理すべき課題 -

A グループ：児童たちにとっての学校・学校のよいところを残す

・土舗装の校庭か、全天候舗装の校庭か

<現状・意見等>

- ・地域としては、土を残したい気持ちはあるはずだ。
- ・地域が要望書を出して実現した土舗装の背景は大切にしたい。現在、22校中3校のみが土舗装（そのうち1校は土舗装ではなくなる）。貴重である。
- ・池とも言え、校庭が“土”のイメージ。シンボルと言ってもよい。
- ・アーバンだと味気ない。少しでも自然の形を残したい。
- ・現在、近隣から土埃の苦情は多くきている。
- ・子どもが走って土を感じるができる範囲は残してほしい。
- ・学校の立場からすると、便利なのは全天候舗装である。雨天後にすぐに体育の授業が可能である。→水はけがよい土はないのだろうか。
- ・マンション住まいの方も多く、周辺に公園も少ない。子どもたちが土と触れ合う機会が減っている。土を残したい。

<グループとしての方向性>

- ・部分的に土舗装・全天候とする。どこまでを土・全天候とするのかは、今後検討。
- ・土を残したい理由は、①自然（土）と触れ合いたいのか、②校庭として（授業等のために）残したいのか。それによって、範囲や土の材質が変わってくる。
- ⇒①の場合は、プロムナード等でカバー可能ではないか。

・屋内プールか、屋外プールか

<現状・意見等>

- ・プールの使用期間は3か月程度。さらに雨天時は使えない。
- ・今年は雨が多いため利用時間は通常の1/3~1/2程度であった。
- ・通常も2時間枠で5回程度しか使わない。
- ⇒果たして必要だろうか。近くのプールで対応するなど工夫はできないか。
- ・狭い敷地で、3か月のためにプールの用途のみで使うのは勿体ない。
- ⇒プール以外の期間は、別の用途として使うなど、有効活用できないか（人工芝で日頃使えるようにする例はあるようだ）。

<グループとしての方向性>

- ・屋内に設置することも検討しつつ、理想は、プール以外の期間に別用途（テニスコート・バスケコート・土埃など）に使えるようにする。

・校舎優先（校舎に豊富なスペース、中屋など）か、校庭優先（広い校庭）か

<現状・意見等>

- ・給食室は必ず設ける方針となっている。
- ・現在の基準を積み上げると、校舎の床面積は7,000㎡~7,500㎡必要となる。
- ⇒校庭が狭くなってしまうのは困る（学校、保護者両者からの意見）。授業等で走り抜けることが厳しくなってくる。
- ・校庭がこれ以上狭くなると、運動会が成立しなくなる。大切な行事である。
- ・遊具（鉄棒・ジャングルジム）、教材園、運動会のテントを設置するスペースは大切である。
- ・校舎内には、DENのようなオープンスペースよりも、多目的室（ランチルーム）など、2クラス程度が集まれるスペースは設けてほしい。（国際交流などで活用）

<グループとしての方向性>

- ・校庭はこれ以上狭くしない。少なくとも現状維持。
- また、面積だけでなく運動会、授業が成立する形にする。
- ・区の基準を守りながら、最大限広くする工夫をしてほしい。（例：校舎を中層化するなど）

B グループ：地域とのつながり・環境への配慮

・プロムナード（遊歩道含む）を今の場所に残すか、別の場所に移すか

<現状・意見等>

- ・同窓会や地域の人も、それほどプロムナードに思い入れはないのではないか。
- ・今のプロムナードは、“学習の場”という視点から見ると活用できていない。
- ・現状では、管理がたいへんである。
- ・死角となる場所にあることも問題。

<グループとしての方向性>

- ・学習の場として活用する、ということを考えなくとも、登下校時に通り、無意識に自然に触れることのできる道、というくらいの位置づけで考えればよいのでは。
- ・地域の人でも自由に使えるようにする。そうすれば、管理を地域の人にもお願いすることもできるのではないか。
- ・セットバックした場所（学校の敷地外）に設ければ、地域の人が利用できる。
- ・設けるとしても、死角となる場所は避けたり、死角を生み出すようなしつらえはしないという視点が大事である。
- ・現状にこだわらず、これからどうすべきか、どうあるべきかを考えるべき。

<グループとしての結論>

- ・「プロムナードを新しく生まれ変わらせる」というコンセプトで検討を進める。

・ヒマヤスギを残すか、残さなくてよいか

<現状・意見等>

- ・卒業生だが、ヒマヤスギに特に思い入れはない。
- ・ヒマヤスギはいつからシンボルになったのか。
- ・カラスが巣を作っているようで、カラスにつつかれたという苦情もあった。
- ・現状で、ヒマヤスギを学校行事などに取り入れたり、活かしたりはしていない。

<グループとしての方向性>

- ・残すことで、子どもたちにとって使い勝手が悪くなるのであれば残さなくてよい。
- ・トラックの配置によっては（使い勝手が悪くなるなら）伐採してもよいのではないかと。
- ・伐採する場合、その木材を活用して下駄箱やレリーフなどを制作して、新たなシンボルとなり得るものをつくらばいいのではないかと。児童といっしょに作れば、それは思い出となる。
- ・改築を機に、新たなシンボルツリーをつくる（設置する）のはどうか。

<グループとしての結論>

- ・ヒマヤスギは残さなくてよい。

・地域開放の範囲は現状のままか、範囲を広げるか

<現状・意見等>

- ・放課後や土日に、グラウンドや体育館はよく使われている。
- ・文化系の団体（演劇や能）も会議室、ランチルーム、和室など、ある程度利用している。
- ・常設の舞台があれば、より利用の幅が広がり、利用希望が増えるかもしれない。
- ・利用は、成人のグループが大半である。
- ・開放管理費が管理しているが、管理や調整が大変である。特に夜間は、学校施設と地域開放施設それぞれの管理が必要である。今の方法だと、これ以上利用団体（登録団体）が増えると管理が困難である。
- ・開放の対象施設を増やすと学校施設と地域開放施設の利用動線の分けや、警備がさらに大変になるだろう。
- ・地域から、開放の対象を拡大してほしいという要望は、それほど聞かない。

<グループとしての結論>

- ・地域開放の対象と範囲は、特に広げなくてよい。

・その他の意見

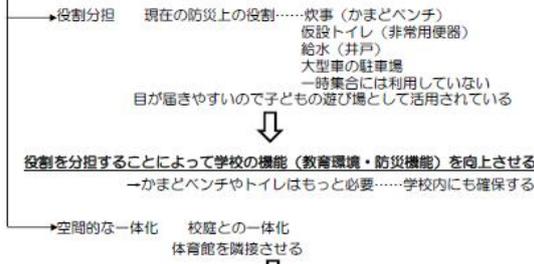
- ・緑が多いに越したことはないが、一概には言えない。
- ・校庭がどの程度の広さになるか、また、校舎の位置はどうなるかなどによって、緑化する場所や量などは変わってくるだろう。
- ・敷地の境界に低木の垣根を植えて、砂防林的な役割を持たせてはどうか。

Cグループ：災害時利用

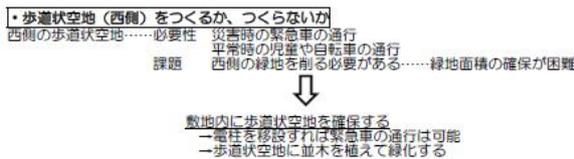
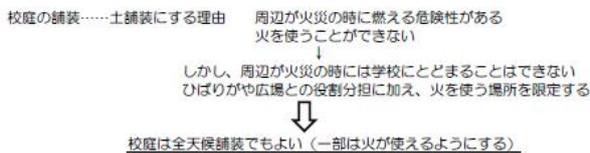
・救援センターとしての機能を最大限備えた学校とするか、ひばりがや広場を最大限活用して一体的に災害時に活用していくか

・ひばりがや広場と体育館を接続させるか、ひばりがや広場と校庭を接続させるか

ひばりがや広場の活用……防災目的の広場が隣接しているのは大きな特徴なので活用する



配置を限定してしまうので、「空間的・機能的に一体利用できるようにする」という表現に留める



全体意見交換で出された方針と検討事項

・校舎優先（校舎に豊富なスペース、中屋など）か、校庭優先（広い校庭）か

<会としての方針>

校庭について

- ・校庭面積は、現状面積を最低限確保する。
- ・面積だけでなく、児童が運動しやすいように、使いやすい形にする（体育授業、運動会が実施可能な形に）。
- ・できれば100mトラックを確保する。また、トラックの回転半径を大きくする、50m走ができるようにする。
- ・運動会用に、テントスペースを確保する。

校舎について

- ・校庭面積を現状維持とする場合、校舎の階数を5階にするなど工夫する必要があるが、それらも含め前向きに検討する。

その他（全体意見交換では出ていないがWSで出した意見）>

- ・多目的室の必要性（複数クラスで集まることできるスペース）
- ・校庭は、遊具（鉄棒、ジャングルジムなど）、教材園、運動会用テント設置スペースは設ける。

再度検討してほしいこと（資料2：6ページを参照しながら検討してください）

- ・遊具（鉄棒、ジャングルジムなど）、教材園、運動会用テント設置スペースを設けると、校庭が狭くなるため上記方針を実現することが大変。

・校庭（土舗装か、全天候舗装か）

<会としての方針>

- ・これまでの背景（土となった経緯：かつて校庭がアスファルトだった時代、児童の発育上よくないことから要望書を提出）を大切にしながら、区の方針も踏まえつつ、児童にとって最もよい方向の案にする。
- ・長所・短所を考慮した上で児童のためになる最善の策を。

	長所	短所
全天候舗装とする場合	・雨天後すぐに授業が対応可能。 ・現在は、品質改善され子どもの発育に影響があったり、転んで大けがをすることはない。	特になし
土舗装とする場合	・ぬかるんだ土を感じるができる。	・雨天後、授業をすぐに開始できない。など

⇒ひばりがや広場と役割分担をしながら、校庭内（周辺部分）は土舗装部分を残しつつ基本は全天候舗装とする。

再度確認したいこと（資料2：7ページを参照しながら検討してください）

- ・全天候舗装が主でよいか（全天候舗装、土舗装のエリアは、上記の通りでよい）。

・プール（屋内か、屋外か）

<会としての方針>

- ・屋内が理想である。まずは、屋内に設置することを検討してほしい。
- ・さらにその上で、屋内・屋外いずれかになっても、使用しない期間は、有効活用できるよう検討する。
⇒プールを使用しない期間に別用途（テニスコート・バスケコート・土俵など）に使えるようにする。

再度検討してほしいこと（資料2：8ページを参照しながら検討してください）

- ・検討により「屋内での整備が難しい」と判断された場合、屋上に整備する可能性が高い。
- ・その際、屋根をかけると、日影規制の影響を受け、ますます校舎の面積確保が困難となる。

・フロムナード（遊歩道舎）を今の場所に残すか、別の場所に移すか

<会としての方針>

- ・死角になる場所に整備するのは避ける（現在の場所には整備しない）。
⇒校庭側に移す。
- ・「フロムナードを新しく生まれ変わらせる」というコンセプトで取り組む。
- ・さらに地域も利用できるようにする。地域開放として使える空間にする。
⇒地域開放は、道路側（外側）に整備する。
- ・その場合、管理を地域が担うことも検討する。

再度検討してほしいこと（資料2：9ページを参照しながら検討してください）

- ・フロムナードを地域開放ゾーンとして位置づけ、道路側（敷地外）に整備する方向でよい。他の場所は検討しなくてよい。など

・歩道状空地（西側）をつくるか、つくらないか

<会としての方針>

- ・設置すると校庭は狭くなる。
- ・平常時の児童や自転車の通行、災害時の緊急車の通行を考えると敷地内に歩道状空地を設置する必要がある。
- ・併せて電柱の移設などを働きかける（防災性の向上のため）。
- ・歩道状空地に並木を植えて緑化する（緑化基準のアップにつながる）。

ワークショップ5

テーマ：建替えに関する提言書（案）

【検討してほしいこと1】校庭に設置するスペース、施設について

（検討事項）

- 施設やスペース（遊具、運動会用テント、教材園）を確保することを考えると、校庭面積が狭くなってしまふ。
- 1) テントスペースは校庭に設ける必要があるか。別の工夫はできないか。
- 2) 教材園のスペースを校庭（表部分）に設置する必要があるか。

【方針】 ※下線が方針

<遊具について>

- ・体育の授業のための遊具は校庭に設置する。（鉄棒、ジャングルジム）

<運動会のテントについて>

- ・現在2つは設置しており、同数程度は設置したい。
- ・トラックを今よりも大きく（100mトラック）確保することを考えると、テントスペースは、必ず校庭に設置するということでもなく、運動会を観ることが出来る場所にあればよい。但し、来賓者席を考えると、テントが分散したり、端に設置ということは避けたい。
- ・運動会観覧スペースとして、これまでの機能を持たせ、ピロティとの一体化も含めて検討する。
- ・配置によっては、ひばりがや広場にテントを設置するという可能性を探ることも検討する（校庭とひばりがや広場が一体化で整備される場合）。

<教材園について>

- ・校庭でなくても屋上等、別の場所に設置してもよい。

メモ）提言書（案）には、必要な機能を明示して、校庭に設置しなくてもよいものは移動するなどの表現で対応。

【検討してほしいこと2】校庭の舗装について

（検討事項）

- ・前回の話し合いで、校庭部分は全天候舗装とし、周辺を土舗装とする方向で進めていたが、それでよいか。
- ・どこまでを提言に盛り込むか。
- ⇒1) 児童たちが土と触れ合う機会を…といった趣旨だと、校庭周辺を土舗装するよりもプロムナード、地域開放ゾーンを自然と触れ合えるようにすることで対応可能である。
- 2) 校庭全面を土舗装とする場合は、長期的に維持費がかかる可能性がある。

※実際は、そのようなことはない。

【方針】 ※下線が方針

- ・会としては、学校とPTA、子どもの意向を大切にしてほしい。

<土舗装派>

- ・他校にヒアリングしたところ、アーバンは夏には暑いとのこと。
- ・前回の討議後、池一小（PTA）にヒアリングをした結果、大多数が土にしてほしいとのことだった。サッカー、野球にも土のほうがよい。
- ・土舗装でも近隣への影響に配慮した材質を工夫できないか。
- ・今は様々な種類が出ている。土埃対策は、現在の状況よりはよくなるだろう。

<全天候派>

- ・近隣への土埃が心配である。校舎の建て方も重要になってくる。
- ・土になった場合、ひばりがや広場一校庭一体型は、近隣への影響（土埃）で難しい。

<質問>

- ・けが人は、土の方が多いが、治りは早いのではないか。校庭でけがをした児童のデータ等、提示してほしい。
- ・次回、けが人のデータ比較を示す。

メモ）次回、事務局で案を提示し、再検討する。

【検討してほしいこと3】プールは屋内、屋外どちらに設置するかについて

（検討事項）

- ・屋内にすると整備費・維持費ともにかかってしまう。
- ⇒それでも、まずは屋内プールの設置で検討する方向で進めるか。
- ・屋内にしたいという理由は、周囲の高層マンションからの覗き問題、プールサイドにおける紫外線の影響。
- ・屋上にプールを設置して屋根をかける場合は、日影規制の影響を受け、ますます校舎の面積確保が困難となる。

【方針】 ※下線が方針

- ・まずは、屋内で設置する方向で検討する。
- ・但し、屋内設置が難しい場合（屋上に整備される場合）は、近隣マンションからの影響がないような位置にプールを設置、或いは、覗き防止の工夫をする。
- ・紫外線防止のための底の設置等をする。

【検討してほしいこと4】新しく設置するプロムナードの位置について

（検討事項）

- ・学校の敷地外に設置する案でよいか。他の場所に設置することや、他の地域開放のあり方はないか。
- ・管理を地域が担うとしたら、どのような体制で、どの組織が担うことができる可能性があるか。

【方針】 ※下線が方針

- ・新たに、西側歩道状空地进行をプロムナードと呼び、地域やPTAで協働管理をする可能性を検討する。
- ・学校敷地内の南側には、児童が自然に触れ合う場を設置することを検討する。その場合の管理は、学校が担当する。
- ・現在のプロムナードの位置は、校舎の裏とならないように有効活用することを検討する。

【その他】近隣との関係について

- ・近隣への迷惑をなるべく少なくする工夫をする。（日影、音、土埃など）
- ・東側は住宅地に接しているため、少しでも負荷が低減するように配慮するとともに、居住性や安全性の向上につながるよう協議することが望ましい。
- ・一例えは、学校の敷地レベルを下げる、災害時に学校に避難しやすくする、消火用水を提供できるようにするなど。

第10回検討会

テーマ：校庭舗装について

(1)児童、学校にとっての校庭

分類	全天候		土(ダスト)	
	良い点など	気になる点など	良い点など	気になる点など
児童	体育の授業など	・雨天後すぐに使用可能 ・けがは長引かない		・雨天後すぐに使用できない ・雨天後すぐに使用したい場合は手入れが必要(人員が必要) ・砂利等が傷口に入り、けがが長引くのではないかな
	外遊び	・上履きのまま外に出ることができる ・下に何かを敷けば竹馬などもできる	・自然をあまり感じるできないのではないかな ・思い切り走れないのではないかな	・自然(土)に触れ合うことができる ・思い切り遊べる、走れる
	イベント(運動会など)	・前転、寝ころぶこともできる	・熱くなるのではないかな	
学校	維持管理	・日常的なメンテナンスが不要 ・水撒きが不要	・劣化時の復旧は専門業者が行う	・日常的なメンテナンスが必要 ・砂ほこり対策等のため、随時水撒きが必要 ・学期に1～2回の側溝清掃が必要
	安全性	・重度のけがが少ない		
	その他			・教室など校舎内に砂ほこりが入ってくる

(2)その他(地域、災害時使用など)にとっての校庭

分類	全天候		土(ダスト)	
	良い点など	気になる点など	良い点など	気になる点など
地域	周辺への影響	・砂、埃が飛ばない		・砂、埃が飛ぶ
	校庭開放	・雨天後すぐに使用可能	・金属のスパイク、ハイヒール等は使用不可	・野球・サッカーで使いやすい 雨天後すぐに使用できない
災害時使用	訓練及び災害時 ・防災訓練時、放水訓練が可能	・車の乗り入れ時はベニヤ板等で養生する ・炊き出し訓練の場所が限定されるのではないかな ・ベグを打ち込んでのテント使用は困難	・場所を選ばず炊き出し訓練が可能 ・ベグを打ち込んでのテント使用が可能	

■その他の意見

・池一小を選択した理由のひとつとして「土の校庭だから」と聞くことがある。
 ・全天候型でスパイク使用が可能であればよいが、使用不可であれば土であってほしい。どうしても全天候になってしまうのであれば、その中でベストなのを願いたい。
 ・野球ができる校庭づくりをしてほしい。
 ・全天候型だとユニフォームが破れてしまう。また、擦り傷が心配である。

第11回検討会

テーマ：改築コンセプトについて

■児童のために第一に

- ・すべての子どものために
- ・「児童のために」を第一に考えた学校

■学校への思い

- ・愛
- ・信頼
- ・伝統
- ・絆
- ・思いやりの心

■地域との絆

- ・共生
- ・地域とのつながりを大切にしたい学校
- ・みんなとつながる
- ・地域のシンボル
- ・一体感
- ・地域で見守るやさしい目

■たのしい学校

- ・毎日楽しく(2)
- ・楽しい学校
- ・元気
- ・学校大好き
- ・子どもの歓声
- ・遊びと運動ができる場
- ・友達ができる場

■絆を深める学びの場

- ・絆を深める学びの場
- ・学び
- ・自立
- ・笑顔のある学びの拠点

■自然・みどり

- ・自然と触れ合う学校

■安全・安心

- ・防災を意識した学校
- ・安全・安心(2)

■土の学校

- ・土曜日は土の日
- ・池一の土

第15回検討会

テーマ：池袋本町地区校舎併設型小中連携校視察、提言書まとめについて

資料 15-1

池袋本町地区校舎併設型小中連携校（池袋本町小・池袋中）視察について

1. 概要

- 視察主旨 提言書の校庭に関する記述を検討するにあたり、最新の校庭を視察し、整備状況を確認するとともに、現場の声や使用感等を参考にするため。

- 出席者（委員のみ、敬称略）

- (1) 10月6日(木) 高橋、谷口、坂間、斎藤、石井、天貝
- (2) 10月27日(木) 野間口、久郷、近藤

2. 当日の様子

(1) 10月6日(木)



(2) 10月27日(木)



3. 池袋本町小 中丸校長の話（概要）

- ・水はけがよく、雨が降った後もすぐに児童が運動できる。
- ・遊具下のクッション性が高く、大げがの心配がない。
- ・石灰でラインを引く必要がなく
- ・砂埃が起きないので、近隣からの苦情もない。
- ・泥の心配がなく、低学年は校庭から教室に直接出入りできるレイアウトになっている。

(5)「池袋第一小学校の建替え等を考える会」会則

(名 称)

第1条 この会は、池袋第一小学校の建替え等を考える会（以下、「本会」という。）と称する。

(目 的)

第2条 本会は、豊島区立池袋第一小学校（以下、「学校」という。）の児童の学習の場及び生活の場としての安全・安心で快適な学校環境を確保するため、教育内容・方法の多様化及び情報化や環境保護等の社会情勢の変化に対応した、また、生涯学習や地域活動等のまちづくりの拠点としての地域に開かれた学校施設づくりを推進することを目的とする。

(協議事項等)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

- (1) 学校施設づくりに必要な調査・研究を行うこと。
- (2) 学校改築等の基本構想をまとめ、豊島区教育委員会並びに豊島区長に提言すること。
- (3) 学校改築等の基本構想の実現に向けた活動を推進すること。
- (4) その他、学校施設づくりに関すること。

(構 成)

第4条 本会は、次に掲げる団体等から推薦、または、選出された者で構成する。

- (1) 学校のPTA、同窓会
- (2) 学校通学区域内の町会及び居住する者の団体等
- (3) 学校通学区域内で活動する地域団体等
- (4) 豊島区、教育委員会及び学校

(役員等)

第5条 本会の役員の構成及び職務は次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長、その他の役員は、委員の中から互選によって定める。
- (2) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- (3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、これを代行する。

(任 期)

第6条 委員及び役員の任期は、本会の設立の日から学校の改築等が終了するまでとする。

(会議運営等)

第7条 本会は会長が召集し、会議を主宰する。

- 2 本会は、必要に応じて部会等を置くことができる。
- 3 学校通学区域内に居住する者及び学校に通学する生徒の保護者は、会議を傍聴することができるものとする。但し、必要がある場合は、委員のみで会議を開催できるものとする。
- 4 会長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させることができる。
- 5 委員は、地域の意見が充分反映されるよう協議するものとする。

(事務局)

第8条 本会の事務局は、豊島区教育委員会事務局学校施設課に置く。

(会則の改正)

- 第9条 この会則に変更の必要が生じたときは、会において協議のうえ改正するものとする。
- 2 この会則に定めのない事項については、会において協議のうえ定めるものとする。

付 則

- 1 この会則は、平成27年4月28日から施行する。

(6)「池袋第一小学校の建替え等を考える会」委員名簿

氏名	所属団体等	備考
野間口 雄三	池袋第一小学校 PTA 会長	会長
高橋 深雪	池袋第一小学校 PTA 副会長	
谷口 智富美	池袋第一小学校 PTA 役員	
坂間 安見子	池袋第一小学校 PTA	
西岡 賢二	池袋第一小学校 PTA	
久郷 直人	池袋第一小学校 PTA	
武石 雅彦	池袋第一小学校同窓会 会長	副会長
鈴木 政義	上池袋池八町会 防災部長	28.11.8 から
熊谷 幸恵	上池袋東雲町会 婦人部相談役	
斉藤 重美	上池袋三丁目町会 副会長	
小峰 博	上池袋町会 町会長	
石原 裕	池袋東一町会 副会長	
森澤 修一	上池袋まちづくりの会 第二地区 会長	
戸田 汎	上池袋まちづくりの会 第三地区 会長	
宮本 志津子	上池袋まちづくりの会 第四地区	
石井 幸子	池袋第一小学校学校開放運営委員会 委員長	
木村 道人	池袋第一小学校 副校長	28.4.1 から
豊田 崇	池袋第一小学校 主幹	
天貝 勝己	豊島区教育委員会事務局 教育部長	
木山 弓子	豊島区教育委員会事務局 学務課長	28.4.1 から
近藤 正仁	豊島区施設管理部 施設整備課長	28.4.1 から
田幡 浩一	池袋第一小学校 副校長	28.3.31 まで
井上 一	豊島区教育委員会事務局 学務課長	28.3.31 まで
野島 修	豊島区施設管理部 施設整備課長	28.3.31 まで
亀山 幸男	上池袋池八町会 町会長	29.4.18 まで

事務局：豊島区教育委員会事務局教育部学校施設課